宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第25集

白ヶ野第3遺跡B地区

県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
（第2分冊）

2000年

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第25集

白ヶ野第3遺跡B地区

県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
（第2分冊）

2000年
宮崎県埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は、県営農地保全整備事業時屋地区に伴い宮崎県教育委員会が実施した、時屋地区遺跡群・白ヶ野第3遺跡B地区の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、宮崎県中部農林振興局の依頼を受けた宮崎県教育委員会が主体となり、平成8年度に宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

3　現地における実測等の記録は松林豊樹、児島由紀、米久田真二、黒木欣綱が行った。

4　本書に使用した写真は松林が撮影し、空中写真については業者に委託した。

5　整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、図面作成、実測、トレースは主として松林が行い、一部を整理作業員の協力を得た。

6　本書における表記等の基本的事項は、第1分冊に準拠している。

7　本書の執筆・編集は松林が行った。

8　出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第1章　調査の経過

第1節　調査の経過 …… 1

第2節　層序 …… 2

第2章　調査の記録

第1節　Ⅰ区の調査 …… 3

第2節　Ⅱ区の調査 …… 18

第3節　Ⅲ区の調査 …… 22

第3章　まとめ

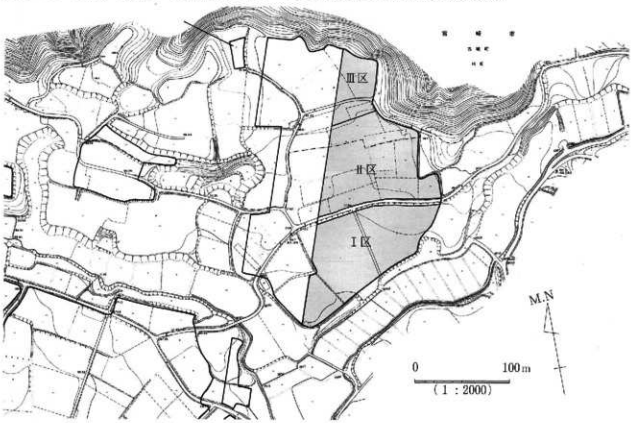
第1節　縄文時代早期の土器について …… 43

第2節　古代の遺構・遺物について …… 47

第１章　調査の概要

第１節　調査の経過

調査対象面積は25,000㎡である。調査地は、その中央部に生活道路が横断し、北側に畑地造成に伴う段があったため、便宜的に３つの調査区に別けて調査を進めた（第１図）。Ⅰ区は重機による表土除去の時点でかなり下層の土が表出し、畑地造成による旧地形改変の著しいことが把握された。このⅠ区南西側では旧地形が谷であったため削平を免れ、比較的多くの遺構・遺物が検出された。主な遺構としては古代の竪穴住居が３軒検出され、遺物包含層からは縄文時代後・晩期の土器等も出土している。また、Ⅰ区は圃場整備計画において盛土対象地となっていたため、前述の谷以外は表土除去後に表土した面のみ遺構検出を行った。Ⅱ区でも若干の地形改変は見受けられたが、アカホヤ火山灰層（６層）以下は比較的良好に遺存していた。しかし、６層上面で検出された遺構は溝状遺構のみで、その下層にあたる７・８層からわずかに縄文時代早期の遺物が出土している。この７・８層の調査では20ｍグリッドを基本としたトレンチを設定して遺物包含層の状況を把握し、特に密度が高かった南西側についてのみ、面的な掘り下げを行った。Ⅲ区でも若干の地形改変は見受けられたが、Ⅱ区同様に６層以下は比較的良好に遺存していた。６層上面では遺構は検出されなかったが、７層・８層中から縄文時代早期の遺構・遺物が検出されている。７・８層の調査に当たり、10ｍを基本としたグリッドを設定して遺物包含層の状況を把握し、ほとんど遺物が検出されなかった調査区東側を除いて面的な掘り下げを行った。また、Ⅲ区では他の調査区と比較すると多量の縄文時代早期の遺物が出土し、隣接して調査を行った東九州自動車道関連の白ヶ野遺跡と接合する資料も見られ、一連の遺跡として評価する必要がある。



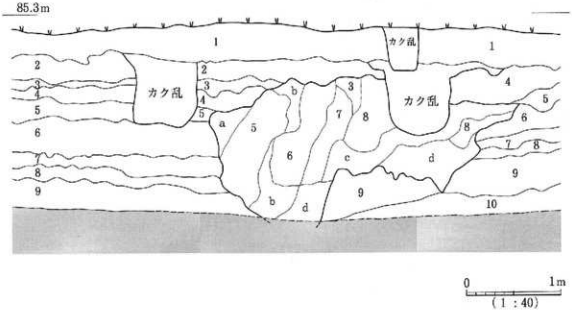
第１図　周辺地形図（1／2000）

第2節　層　序

第2図はⅠ区の谷1西側の土層断面図である。1～3層は耕作により形成されたものと考えられ、各調査区において微妙に異なる。また、4・5層は1区の旧谷地形の部分でのみ堆積が確認された点と、古代および縄文時代後・晩期の遺物が混在するかたちで包含されていたことから、二次的な堆積層である可能性が高い。

遺物の包含層は4・5層（縄文時代後・晩期、古代）、7・8層（縄文時代早期）で、遺構検出は4・6・8・9層の上面で行った。

第2図の中央は層位の横転で、各調査区において同様のものが多数みられた。これらの土層横転は風等による樹木の転倒（いわゆる風倒木）に起因する可能性が高い。また、このような層位の横転はⅠ～Ⅲ区において数多く確認されている。



第2図　土層図（Ⅰ区・1／40）

1層	黒　色　土（表　　土）	耕作土
2層	黒　色　土（旧 耕 作 土）	黒色・暗橙色のスコリアを多く含む
3層	暗 褐 色 土（旧 耕 作 土）	きめ細かく、しまりがない
4層	褐　色　土（遺物包含層）	6層の2次堆積層とみられ、縄文時代・古代の遺物を含む
5層	黒　色　土（遺物包含層）	しまりがなく、縄文時代・古代の遺物をわずかに含む
6層	暗黄橙色土	いわゆるアカホヤ火山灰
7層	黒　色　土（遺物包含層）	非常に固くしまり、縄文時代早期の遺物を含む
8層	暗 褐 色 土（遺物包含層）	非常に固くしまり、縄文時代早期の遺物を含む
9層	明 褐 色 土	やや軟質で、わずかに粘性を帯びる
10層	明 褐 色 土	硬質で、いわゆる小林軽石を含む
a	4・5層の混合土	
b	5・6層の混合土	
c	7・8・9層の混合土	
d	6・7・8層の混合土	

第２章　調査の記録

第１節　Ⅰ区の調査

Ⅰ区では重機による表土の除去後、攪乱やかなり下層の土が表面に現れた部分がみられるなど、大規模な旧地形の改変が確認された。この結果、地形改変以前のⅠ区は、３つの浅い谷と低い丘陵状の高まりで構成された地形であったことが推測された。なお、調査にあたって、Ⅰ区は圃場整備の計画において盛土を施す区域であったため、表土除去後、６層似下の土が露出した部分については、その面でのみ遺構検出を行った。

Ⅰ区で検出された遺構は、竪穴住居３基、柱穴状遺構、溝状遺構２条、硬化面（道路状遺構？）１、集石遺構11基である。これらの遺構は、竪穴住居は谷１の南西向き緩斜面、柱穴状遺構は谷１の基底付近、集石遺構が谷の縁辺部３か所に集中して検出された。

Ⅰ区の遺物は、そのほとんどが谷１の堆積土である４・５層中からの出土で、竪穴住居に関連する古代の土師器・須恵器や縄文時代後・晩期の土器・石器等である。また、集石遺構周辺で縄文時代早期の遺物が若干出土している。

１　遺構および出土遺物

ａ．集石遺構

Ⅰ区では11基の集石遺構が検出され、その分布は前述のとおり谷１の南西側（４基）、谷１と谷２の間（２基）、谷２と谷３の間（４基）の３か所に集中している。この３か所に分布する集石遺構は、それぞれ近接するものと構成する礫や掘り込みの形状等に共通する点が多い。

１号集石遺構は直径50cm・深さ25cmの掘り込みを有するもので、礫の密度は低く、５cm大の角礫・円礫によって構成されていた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

２号集石遺構は長軸1.8m・短軸1.2m・深さ10cmほどの浅いレンズ状の掘り込みを有するもので、礫の密度は低く、３～４cmほどの小さな角礫が疎らに分布していた。礫はほとんどが赤く変色していたが、掘り込みの埋土中に炭化物や焼土の粒は余くみられなかった。

３号集石遺構は長軸1.6m・短軸1.4m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、最深部には20～50cmの礫による配石がみられた。その上に赤く変色した５cm大の角礫が集中し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。なお、第３図１の土器はこの遺構周辺から出土したもので、屈曲した胴部の外面に山形押型文を施し、その上に太い沈線文がみられる手向山式土器である。

４号集石遺構は直径1.3m・深さ45cmの掘り込みを有するもので、その中に５～８cm大の角礫が集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

５号集石遺構は直径80cm・深さ５cmほどの掘り込みを有するものとみられるが、攪乱により破壊されており、礫も赤く変色した５cm大の角礫が３点ほどみられたのみである。掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が少量みられた。

６号集石遺構（第３図）は直径90cm・深さ20cmほどの掘り込みを有するもので、その掘り込みに沿うように５～10cm大の角礫が環状に検出された。礫のほとんどは赤く変色し、掘り込みの埋土の下層

には炭化物や焼土の粒が少量みられた。

7号集石遺構は直径1.2m・深さ40cmの掘り込みを有するもので、その中に3～10cm大の角・円礫が集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

8号集石遺構は長軸1.5m・短軸1.4m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、その中に5～10cm大の角・円礫が集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

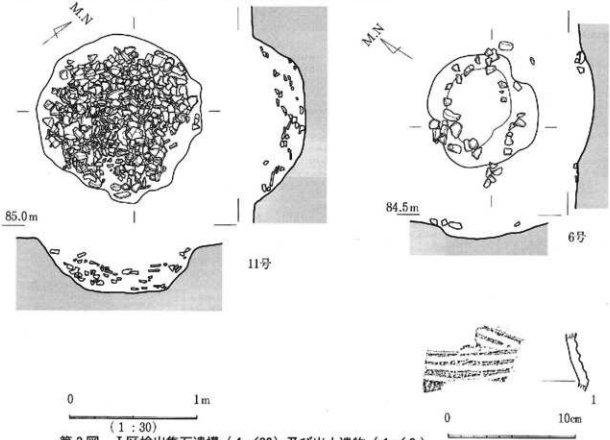
9号集石遺構は長軸1.4m・短軸1.3m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、その中に5～10cm大の角・円礫が高い密度で集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

10号集石遺構は長軸1.9m・短軸1.6m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、その中に3～10cm大の角・円礫が高い密度で集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

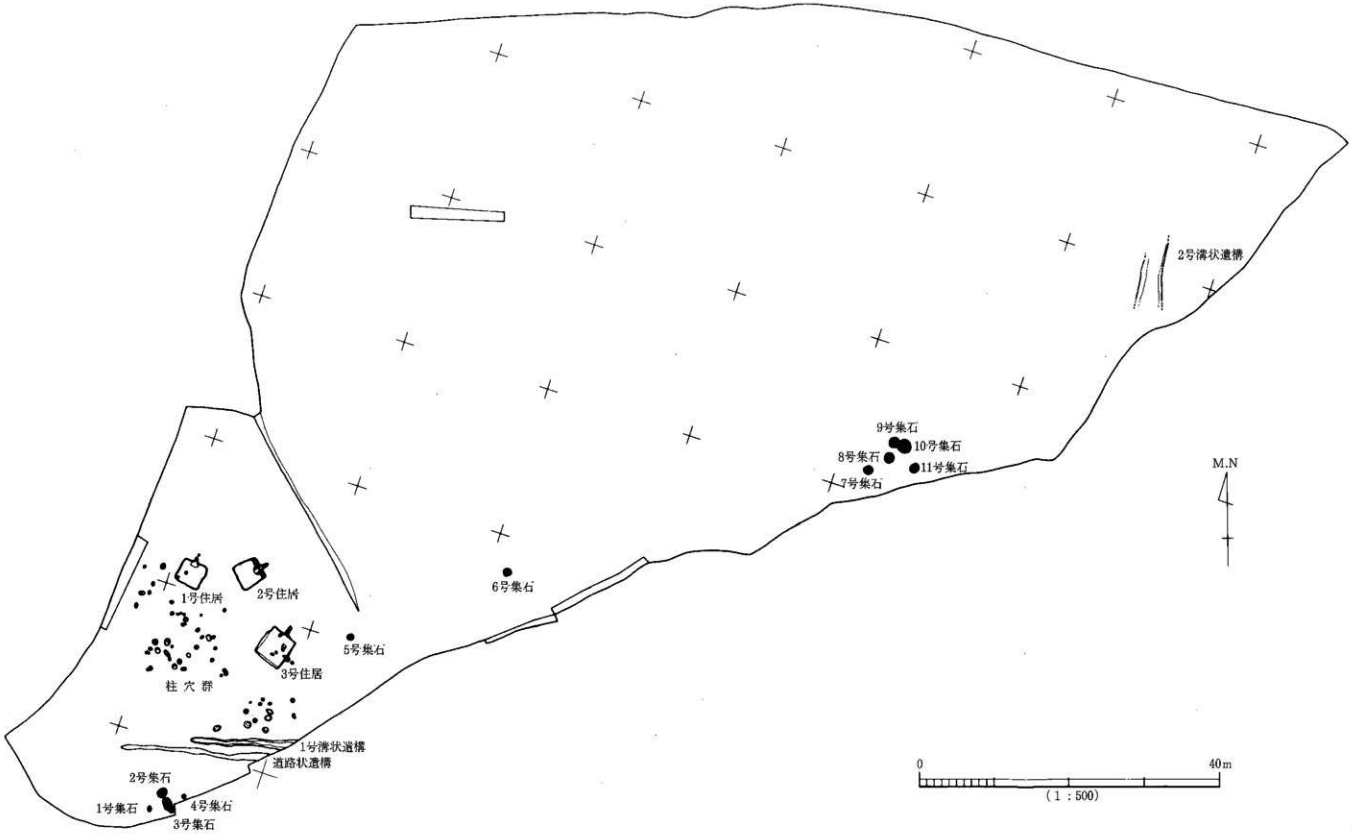
11号集石遺構（第3図）は直径1.3m・深さ40cmの掘り込みを有するもので、その中に3～20cm大の角・円礫が高い密度で集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

b．柱穴状遺構

柱穴状遺構は谷1の堆積土である4・5層上面で集中的に検出された（第4図）。規則的な配列なども確認できず、出土遺物も無いため時期や使用目的は不明である。



第3図　Ⅰ区検出集石遺構（1／30）及び出土遺物（1／3）



第4図　Ⅰ区遺構分布図（1／500）

c．竪穴住居

竪穴住居はすべてが谷１の南西向き緩斜面の４層上面で検出された。１・３号はほぼ同じ方向に主軸を持つが、２号だけは主軸がやや東に傾く。また、３基はすべて斜面上方に向かって煙道が延びるカマドを有するが、３号のみそれと直行する南側壁面中央にもう１つカマドを持つ。

１号住居は１辺3.5m・深さ20cmの方形プランを呈する竪穴を有し、その床面には中央やや西よりと南西隅に柱穴状の落ち込みを持つ。また、谷１に対して斜面の上方に当たる北側壁面の中央付近にカマドを有する。検出時点での竪穴内部のカマドの構造は、壁面から長さ40cmほどの白色粘土の飛びだしがみられ、その内部に灰や炭化物・焼土粒を多く含む土が堆積していた。また、その周囲にも焼土や白色粘土ブロックが点在していた。これらの白色粘土や埋土を除去するとその下には長軸１m・短軸60cm・深さ５cmで複数の小さなピット状の落ち込みを持つ不正形な土坑が検出され、その基底部中央は赤く変色し硬化していた。この土坑は竪穴外部の幅30cm・長さ１m・深さ30cmほどの溝へ続き、検出面から掘り込まれた直径30cm・深さ30cmの穴へと接続している。この竪穴外部の施設は煙道と考えられるが、竪穴の壁面から外部に延びる溝とその先にある穴との間はトンネル状の構造を呈する。

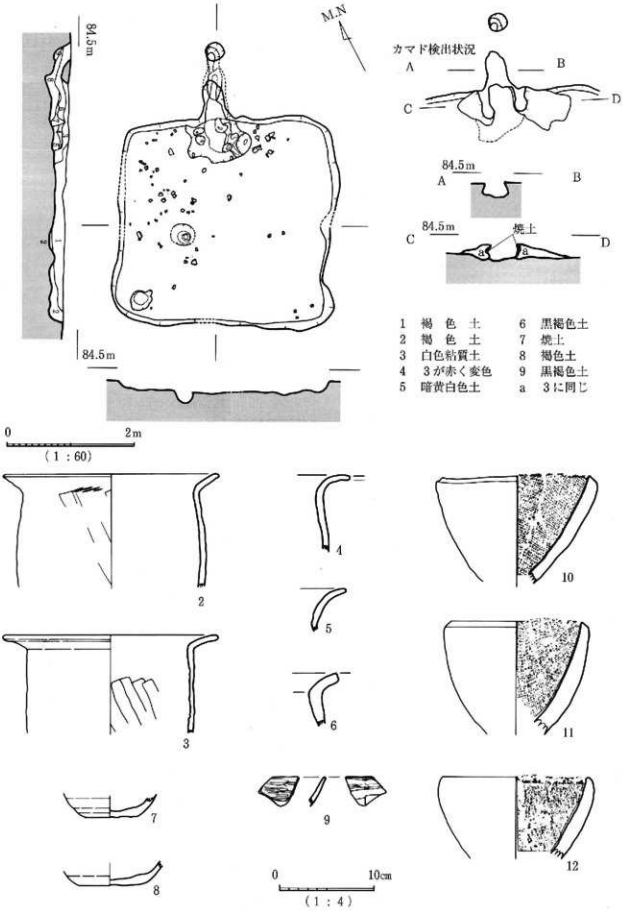
遺物は少ないが、その大半は床面直上からの出土である。

２～６は甕である。内湾気味の直線的胴部から頸部でくの字状に屈曲する口縁部を持つ。口縁部の形状にかなりばらつきがあるが、２の外面が工具ナデ、３・６の内面がヘラケズリ調整である以外はナデ調整である。ただし、６は器壁の厚さや口唇部を平坦にする等の相違がみられる。７・８は坏である。７は底部外面にヘラによる切り離し痕跡を明瞭に残すのに対して、８はナデによりこれを消している点や底径が異なる。９は内黒土器の埦の口縁部である。10～12は製塩土器とみられ、内面に型造りの際の布の圧痕がみられる。

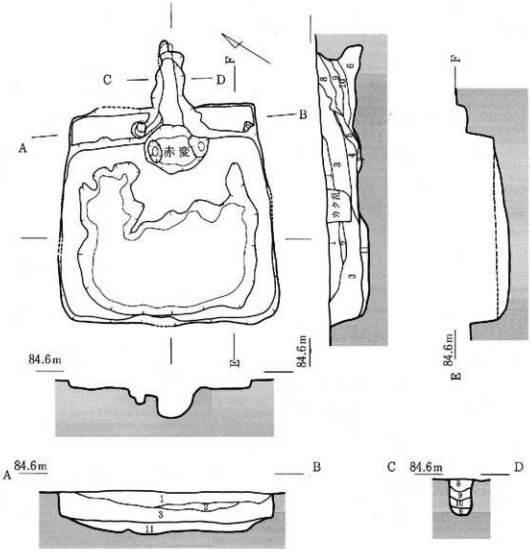
２号住居は１辺3.4m・深さ80cmほどの方形プランを呈する竪穴を有し、床面は竪穴の堀り底から20cmほど埋めた貼床で、床面には柱穴状の落ち込みは伴わない。１号住居同様に谷１の斜面上方に当たる北東側壁面の中央付近にカマドを有し、カマドを挟んだ竪穴北東側壁面の内側に地山を幅40cm・高さ40cmほど掘り残した棚状の施設がみられる。カマドの焚口と思われる部分には長軸１m・短軸70cm・深さ５cmほどの浅い土坑があり、その長軸の両端に深さ20～30cmのピットがみられた。この土坑の上には第６図で示すように白色粘土が堆積していたが、１号住居ほどカマドの原形を保っていなかった。また、土坑およびその周辺部は第６図で示すような範囲で赤く焼け、硬化していた。カマドの煙道は１号住居のようなトンネル状にはならず、竪穴北東側壁面から幅50cm・長さ１mほどの溝が掘り込まれたもので、溝の下方が潜り込むかたちで外側に長く延びる特徴を持つ。

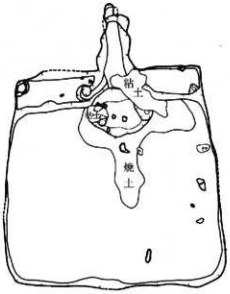
遺物はカマド周辺を中心に出土しているが、その数は少ない。また、13はカマドに向かって左側の棚状施設の角に口縁部を下するかたちで出土した。

13～17は甕である。やや丸みを帯びた胴から頸部で頸部でくの字状に屈曲する口縁部を持つ。口唇部は平坦に仕上げるもの（13・14）と丸く仕上げるもの（15～17）があり、頸部の屈曲から下の内面はすべてヘラケズリ調整である。また、15・17はやや小型である。18は注ぎ口を持つ鉢の口縁部、19は平底の底部で同一個体とみられる。20～22は坏である。すべて底部外面のヘラによる切り離し痕跡をナデ消している。23・24は製塩土器、25は土器片錘である。26は内黒土器の小型の坏で、やや高台状の底部外面にはケズリ調整が施されている。27は須恵器の壷の胴部で、内面は粗いナデ調整、外面には肩部付近



第5図 1号住居（1／60）及び出土遺物（1／4）

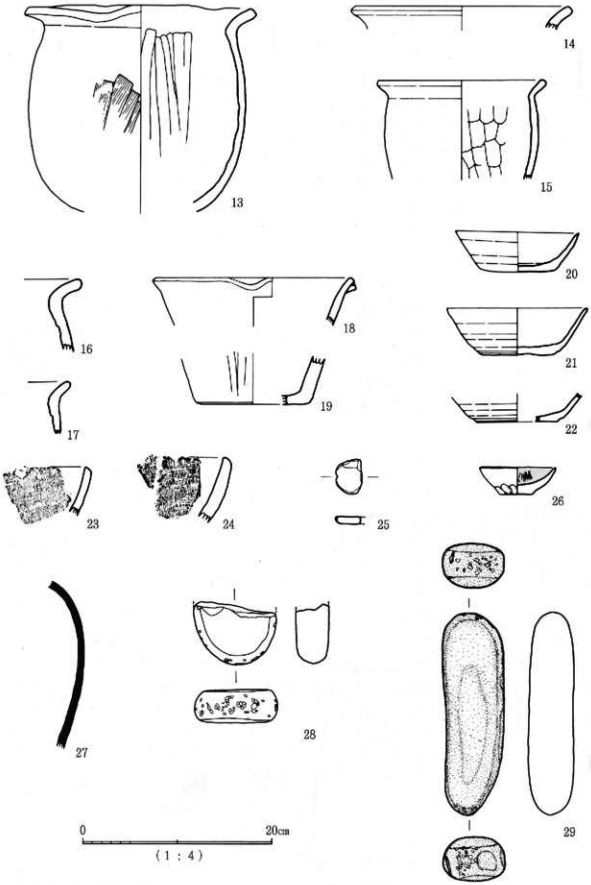




1　暗褐色土
2　暗黄褐色土
3　暗褐色土
4　暗黄褐色土
5　黄白色土
6　暗褐色土
7　5と焼土の混合土
8　暗黄褐色土
9　黒褐色土
10　8に同じ
11　6・7・8層の混合土

0　2m
（1：60）

第6図　2号住居（1／60）



第７図　２号住居出土遺物（１／４）

に集中して自然釉がみられる。28は擦石で側面はざらつきが著しく、一部に敲打痕もみられる。29は敲石と考えられ、細長い石の先端にそれぞれ敲打痕がみられる。

3号住居は長軸4.2m・短軸3.9m・深さ70cmほどの長方形プランを呈する竪穴を有し、1・2号住居よりもやや大型の住居である。床面には2つの柱穴状の落ち込みと浅く不整形な土坑が1基みられ、1・2号住居同様に谷1の斜面上方に当たる北側および谷1に平行する東側壁面の中央付近にカマドを2基有する。北側壁面のカマドは焚口部左側に白色粘土のブロックがみられるが、1・2号例のような土坑は伴わず、煙道は幅40cm・長さ1.2mの溝状のもので2号住居例に近い。東側壁面のカマドは焚口部の両側に白色粘土がみられ、その間の浅い溝がそのまま煙道に接続している。煙道の壁面からの突出は短いが、その外側にある直径40cmの穴へとトンネル状に繋がる構造で、1号住居例と類似している。

遺物はカマド周辺を中心に出土しており1・2号住居よりも豊富だが、その数は少ない。

30～36は甕である。やや丸みを帯びた胴から頸部で頸部でくの字状に屈曲する口縁部を持つものとみられるが、31・33は口縁部が短い。また、34・35は平底を呈する底部であり、完形の30・31とは形状が異なる。37・38は坏、39は高台坏、41は皿である。40は体部が内湾する埦とみられるが、外面にケズリ状の粗いナデ調整がみられ、37～39のような回転台土師器とは明らかに異なる。42は鉢とみられるが、外面にカキメ状の調整、内面に弱いケズリ調整がみられる。43～45は内面に布目圧痕をもつ製塩土器である。46は内黒土器の鉢である。47は須恵器の蓋、48は須恵器の坏で底部外面はヘラによる切り離し痕跡をナデ消している。49は須恵器の竈の口縁部である。50～52は須恵器の甕で、外面に格子目タタキ痕、内面に平行当て具痕がみられる。ただし、52の内面については当て具の形状が判然としない。53はいわゆる組織痕土器、54は深鉢の底部とみられ、ともに縄文土器である。

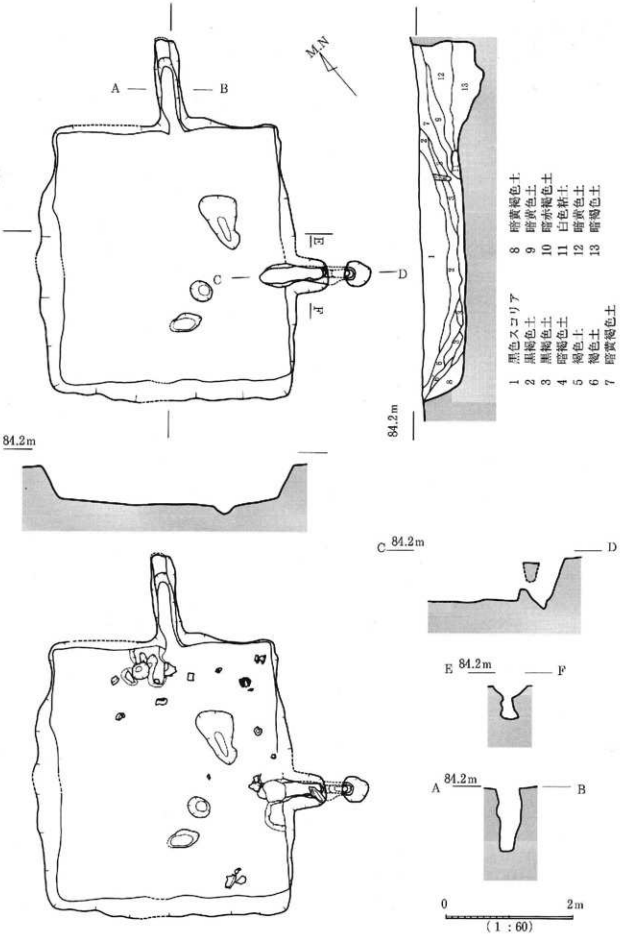
d．溝状遺構

1号溝状遺構はⅠ区南西の谷1を東西に切るかたちで検出された。幅約1m・深さは最深部で30cmを計る。遺物の出土はほとんどないが、溝の埋土にテフラの堆積がみられ、それについての自然科学分析を実施している。その結果、桜島3テフラ（1471年）の降灰から霧島新燃享保テフラ（1717年）の降灰までの間に構築された可能性が指摘されている。

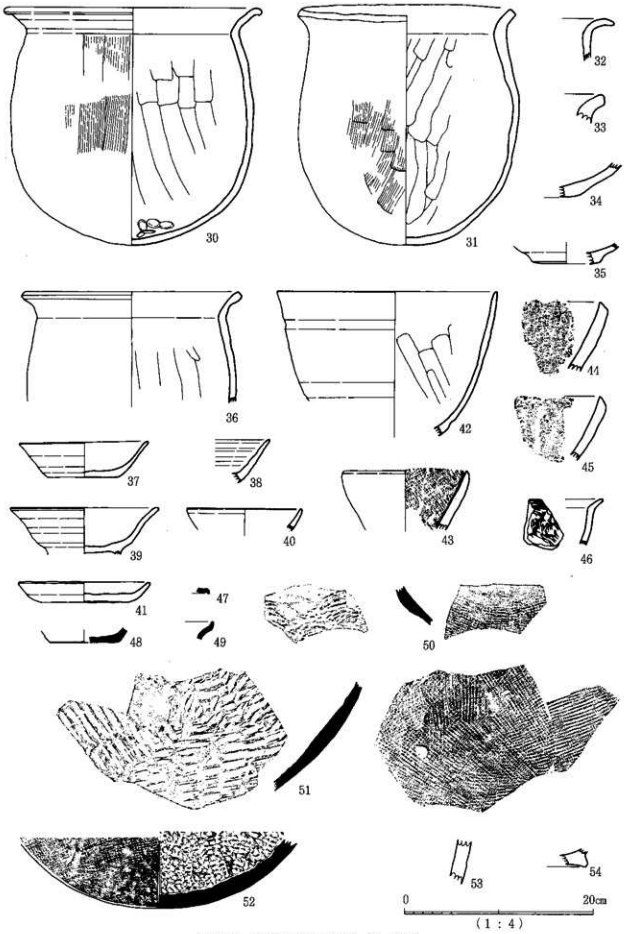
2号溝状遺構は1区の東側で検出された。幅3m・深さは最深部で90cmを計り、南側へ向かって深くなる傾向がみられた。周辺の削平が激しく、遺構の両端に攪乱がみられるため、本来の形状等は知り得ないが、2区で検出された溝状遺構と埋土や位置の上で何らかの関係がある可能性がある。遺物はみられなかったが、1号同様にテフラ分析を行っている。その結果、桜島3テフラ（1471年）の降灰以前の遺構である可能性が指摘されている。

e．道路状遺構

道路状遺構は前述の1号溝状遺構と平行するかたちでその南側から検出された。幅50cm～1m、長さ約20mにおよぶ硬化面がみられ、遺構の性格も判然としないが、ここでは道路状遺構として扱った。遺物等は確認できなかったため時期等は不明である。


A
B
C
D
E
F
M.N
84.2m
1 黒色スコリア
2 黒褐色土
3 黒褐色土
4 暗褐色土
5 褐色土
6 褐色土
7 暗黄褐色土
8 暗黄褐色土
9 暗黄色土
10 暗赤褐色土
11 白色粒子
12 暗黄色土
13 暗褐色土
0
2m
(1:60)

第8図　3号住居（1／60）

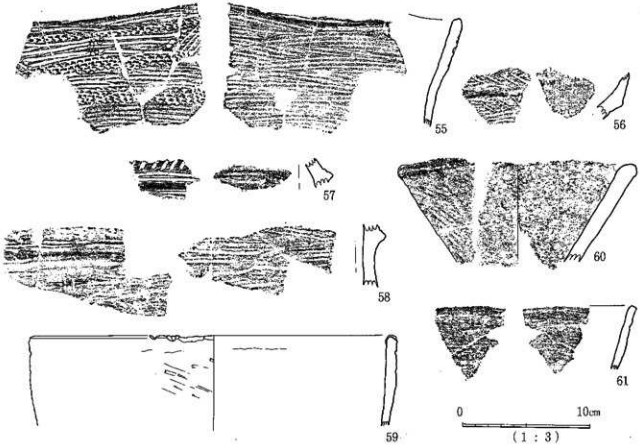


第9図　3号住居出土遺物（1／4）

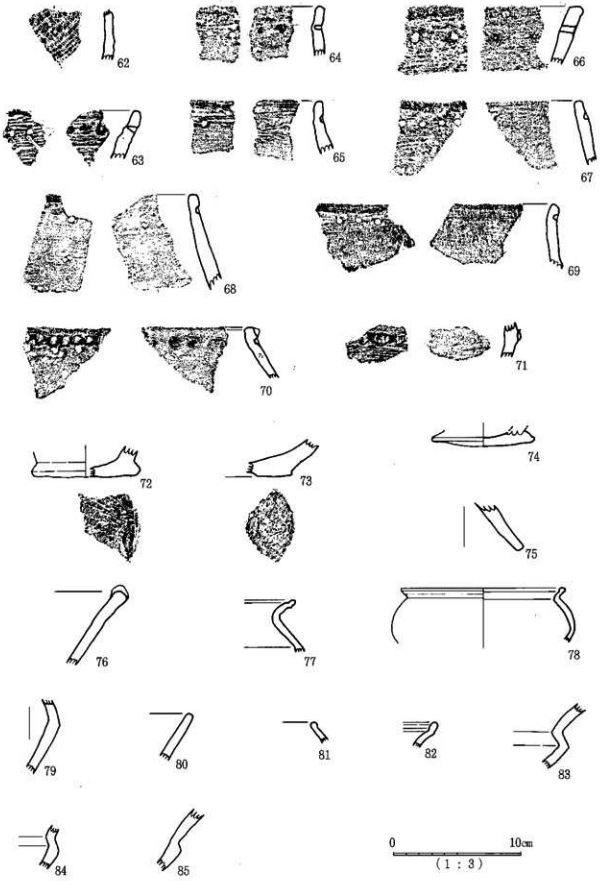
2　その他のⅠ区出土遺物（遺構外）

55～58はいわゆる市来式系の深鉢形土器で貝殻条痕文や貝殻復縁刺突文、刺突文、沈線文等が施されている。59は深鉢形土器で口唇部の一部に幅の広い刻目がみられる。60は小型の鉢形土器である。61は深鉢形土器で器壁が非常に薄い。62はいわゆる組織痕土器で外面に編み物の圧痕がみられる。63～70はいわゆる孔列土器ですべて深鉢形土器とみられるが、傾きの相違や刻目突帯が巡るものがある等かなりバリエーションが豊富である。71は深鉢形土器の胴部で屈曲部の外面に刻目突帯をもつ。72～74は底部である。75は脚台とみられる。76は粗製の浅鉢形土器の口縁部で、口唇部にヒレ状の突起がみられる。77～85は精製の浅い鉢形土器で、ある程度の時期幅が伺える。

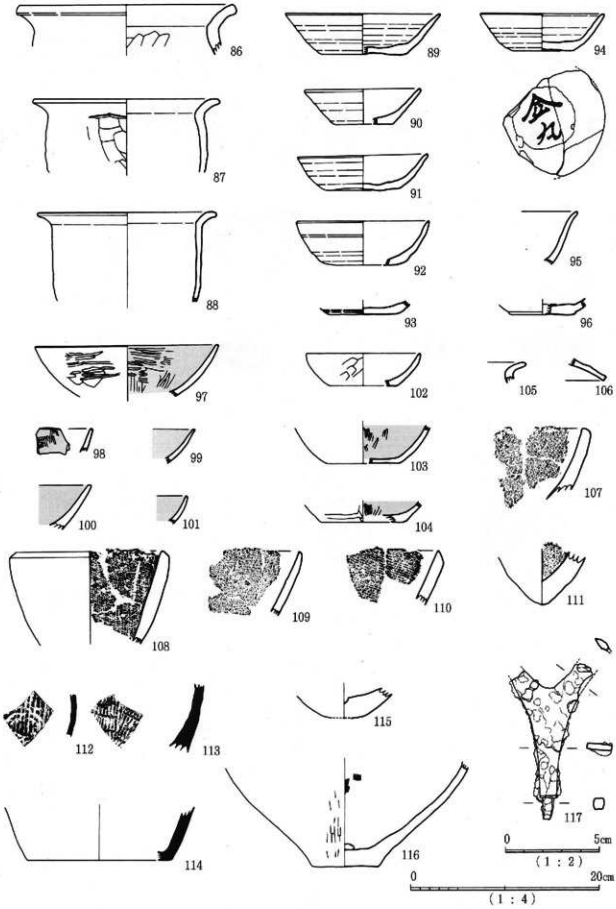
86～88は甕である。89～96は坏で、94の底部外面には「金？丸」の墨書がみられる。97～101、103・104は内黒土器の椀である。102は内黒土器では無いが、その調整技法が89～96のような回転台土師器とは異なり、形状的には内黒土器椀に近い。105は内黒土器鉢の口縁部、106は土師器（もしくは赤焼けの須恵器）の蓋坏の蓋である。107～111は内面に布目圧痕がみられる製塩土器である。112・113は須恵器の甕胴部、114は須恵器の壺の底部である。115は甕、116は壺の底部であるが、他の遺物とは時期的に異なり、弥生時代～古墳時代のものである可能性が高い。117は刈又形の鉄鏃で、先端部を欠く。118～123は打製石鏃で、119～121は基部に抉りがみられない。124はスクレイパー、125は石核である。



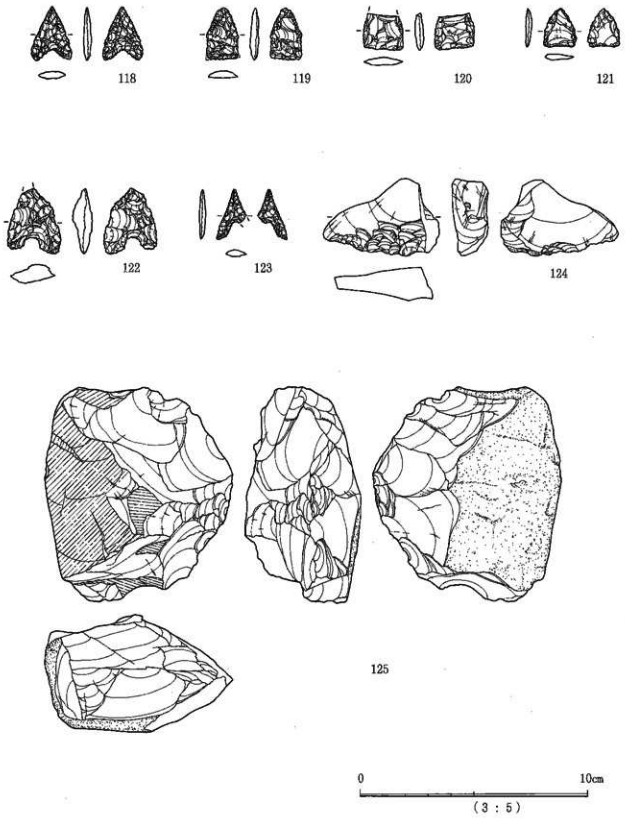
第10図　Ⅰ区出土遺物①（1／3）



第11図　Ⅰ区出土遺物②（1／3）



第12図　Ⅰ区出土遺物③（1／4・117のみ1／2）



第13図　Ⅰ区出土遺物④（3／5）

第２節　Ⅱ区の調査

Ⅱ区では重機による表土の除去後６層上面で遺構検出を行ったが調査区東側で溝状遺構が１条検出されたのみである。７・８層については20mグリッドを基本とした幅１mのトレンチを設定し、遺物・遺構の包含状況を確認したが、分布量が少なかったため、比較的多くの遺物がみられた調査区南西隅の部分に限って面的な堀り下げを実施した。

①遺構および出土遺物

遺構として検出されたのは前述のとおり溝状遺構１条のみである。

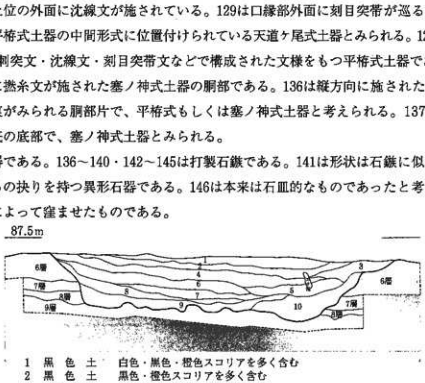
３号溝状遺構は調査区東側の中央付近から北の調査区外へと続くもので、幅４m・長さ50m・深さ20～40cmを計り、溝の基底面には６つの土坑を伴う。この土坑は遺構の南端付近に集中しており、円形・方形・隅丸方形のものが２mほどの間隔で５つ並んでいる。遺物は伴わないため時期については不明だが、その位置や埋土の特教からⅠ区の２号溝状遺構との関連が考えられる。

②出土遺物

遺物は調査区南西側を中心に７・８層中から縄文時代早期の土器・石器が出土している。

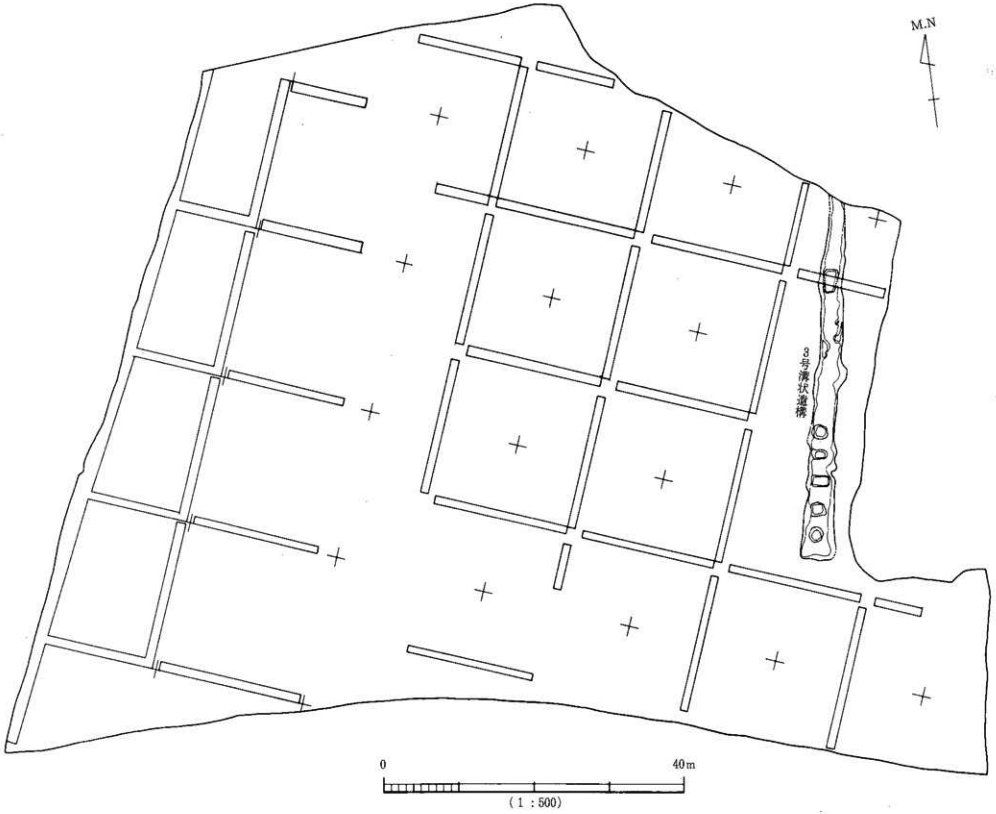
126は手向山式土器の口縁部で、外面に沈線文・内面に山形押形文がみられる。132は手向山式土器の胴部で、屈曲部上位の外面に沈線文が施されている。129は口縁部外面に刻目突帯が巡るもので、近年手向山式土器と平栫式土器の中間形式に位置付けられている天道ヶ尾式土器とみられる。127・128・130・131・133・134は刺突文・沈線文・刻目突帯文などで構成された文様をもつ平栫式土器である。135は沈線による区画内に撚糸文が施された塞ノ神式土器の胴部である。136は縦方向に施された３条の沈線間に結節縄文の圧痕がみられる胴部片で、平栫式もしくは塞ノ神式土器と考えられる。137は外面に網目撚糸文を持つ平底の底部で、塞ノ神式土器とみられる。

138～146は石器である。136～140・142～145は打製石鏃である。141は形状は石鏃に似ているが、先端部に両側面からの抉りを持つ異形石器である。146は本来は石皿的なものであったと考えられるが、その断面を敲打によって窪ませたものである。

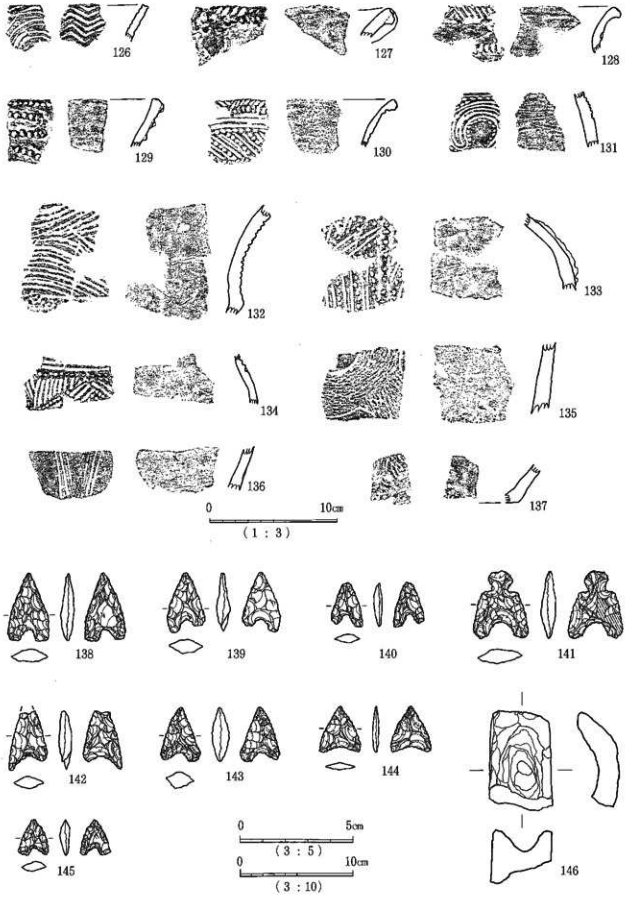


1	黒　色　土	白色・黒色・橙色スコリアを多く含む
2	黒　色　土	黒色・橙色スコリアを多く含む
3	黒褐色土	黒色・橙色スコリアを多く含む
4	暗褐色土	黒色・橙色スコリアを多く含む
5	褐　色　土	黒色・橙色スコリア、炭化物粒を含む
6	暗褐色土	黒色・橙色スコリア、炭化物粒を含む
7	暗褐色土	６層粒をわずかに含む
8	暗褐灰色土	６・７層粒を多く含み、上面が硬化
9	暗褐色土	６・７層のブロックを多く含み、上面が硬化
10	黒褐色土	６層・焼土・炭化物粒を多く含む

第14図　３号溝状遺構土層図（１／40）



第15図　Ⅱ区遺構分布図（1／500）



第16図　Ⅱ区出土遺物（126～137は1／3・138～145は3／5・146は 3 ／10）

第3節　Ⅲ区の調査

Ⅲ区では重機による表土の除去後6・7・8・9層上面で遺構検出を行ったが6層上面では遺構が検出されず、8・9層上面で集石遺構9基を検出した。遺物は7・8層中より縄文時代早期の土器・石器が出土している。また、7・8層の面的な掘り下げに先行して掘削した10mグリッドを基準としたトレンチ内の状況から、遺物等の包含が確認されなかった調査区南東の部分については面的な掘り下げを行わなかった。

1　遺構および出土遺物

遺構として検出されたのは前述のとおり集石遺構9基のみである。

12号集石遺構は90cm×60cmの範囲に10cm大以下の赤く変色した角礫が24点ほど散在するかたちで8層上面から検出されたもので、掘込みは伴わない。

13号集石遺構は40cm×30cmの円形に10cm大以下の赤く変色した角礫が集中するかたちで8層上面から検出され、礫の広がる範囲がわずかに窪む程度で明瞭な掘込みは伴わない。

14号集石遺構は60cm×45cm・深さ5cmほどの浅い楕円形の掘込みを伴い、5～10cm大の赤く変色した角礫が北側に集中して検出された。検出面は9層上面で、掘込み埋土には炭化物や焼土粒が含まれていた。147はこの遺構からの出土で、外面および口縁部内面、口唇部に楕円押形文が施された深鉢の口縁部である。また、図化していないが、楕円押形文土器や平底の底部片が礫中より数点出土している。

15号集石遺構は40cm×35cm・深さ10cmほどの浅い隅丸方形の掘込みを伴い、5～10cm大の角礫30点ほどが東側に集中して検出された。検出面は9層上面である。埋土に炭化物や焼土粒などはほとんど見られず、礫は全体の1／3程度が赤く変色していた。

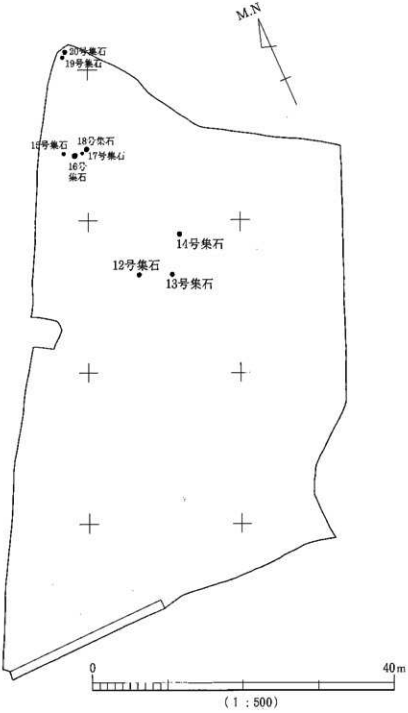
16号集石遺構は直径80cm・深さ15cmほどの円形の掘込みを伴い、5～10cm大の礫がのその中に集中して検出された。検出面は9層上面である。ほとんどの礫は赤く変色しており、掘込みの基底には30cm大の比較的偏平な礫が敷かれていた。

17号集石遺構は直径50cm・深さ10cmほどの円形の掘込みを伴い、その中に5～10cm大の赤く変色した礫が10点ほど散在するかたちで検出された。検出面は9層上面である。

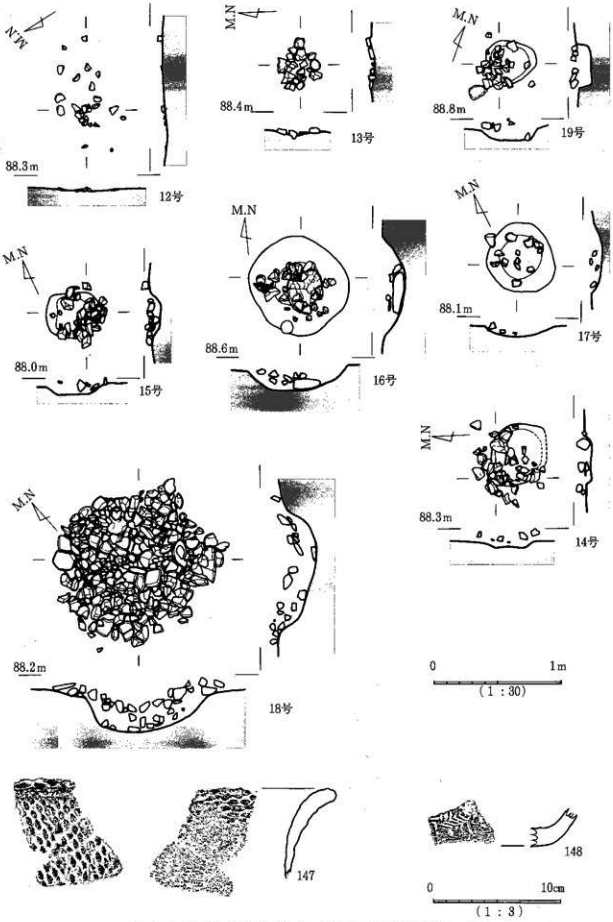
18号集石遺構は17号集石遺構の東側に近接して9層上面から検出されたもので、3区で検出された集石遺構の中ではかなり大型である。直径1m・深さ30cmほどの円形の掘込みを伴い、5～20cm大の礫がのその中に高い密度で検出された。掘込み埋土の下位には炭化物や焼土粒が多くみられ、礫の大部分は赤く変色していた。

19号集石遺構は40cm×30cm・深さ10cmほどの楕円形の掘込みを伴い、5～15cm大の赤く変色した角礫が南側に集中して検出された。礫はすべて赤く変色し、掘込み埋土の下位には炭化物や焼土粒がみられた。また、礫間より楕円押形文土器が出土している。148はこの遺構からの出土で、外面に山形押形文が施された平底の底部である。

20号集石遺構は掘り込みなく、数個の礫が出土したもので、調査時点では集石遺構としていたが、他の遺構と同様の集石遺構とすることには疑問が残ったため、ここでは扱わない。



第17図　Ⅲ区遺構分布図（1／500）

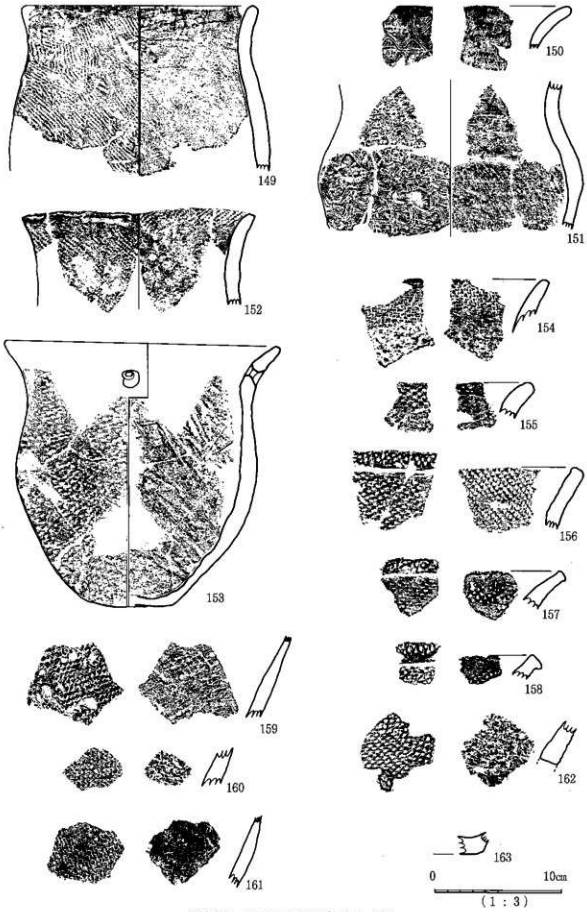


第18図　Ⅲ区検出集石遺構（1／30）及び出土遺物（1／3）

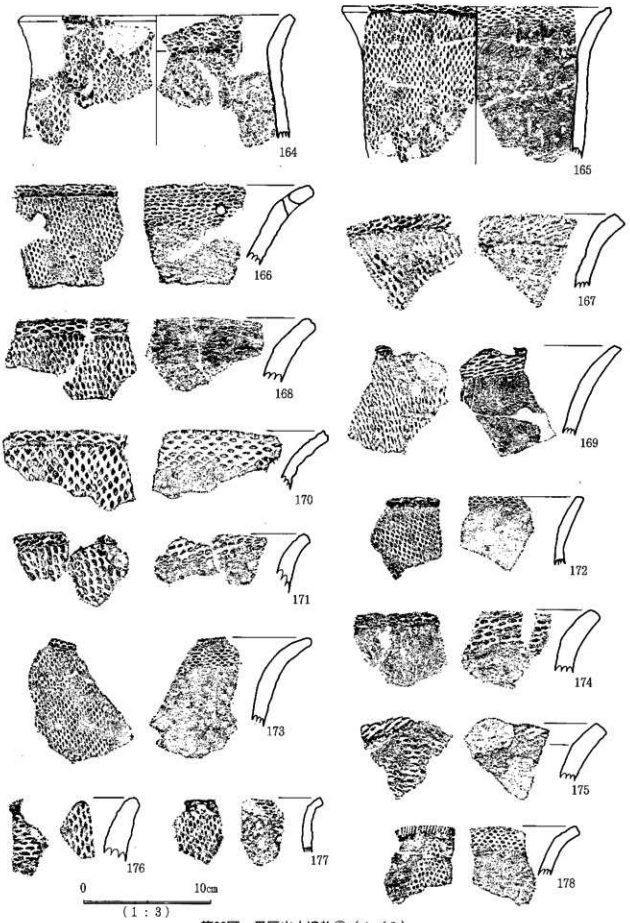
2　その他の出土遺物

149～152は撚糸文土器である。150・151は同一個体とみられ、共に外面に変形撚糸文が施されている。153～162は施文の状況や部位から押型文土器の一種とみられるが、その原体は判然としない。164～186は楕円押型文土器で、施文部位や方向、原体の大きさ等にかなり個体差がみられる。178は口唇部の施文が楕円押型文ではなく、沈線文である。また、178～180は外面の楕円押型文が全面的でなく、間隔をあけて帯状に施文されている。182～186は底部であるが、182は底部外面にも楕円押型文が施されている。187～199は山形押型文土器である。192は外面に鋸歯状の沈線文、口縁部内面に山形押型文が施されている。195は178～180と同様に山形押型文が間隔をあけて帯状に施文されている。196は山形押形文土器の破片を円盤状に加工したものである。200は口唇部にハ状の押圧、外面に斜めの沈線文がみられ、手向山式土器の可能性が高い。201・202は同一個体とみられ、外面および口唇部、口縁部内面に条痕文が施された土器であり、施文部位等は押形文土器と共通している。203～221は平棹式土器である。口縁部は肥厚し、刺突文や沈線文、撚糸文等が組み合わされた文様が施されている。胴部も同様で、刻目突帯を持つものや地文として撚糸文がほどこされたものがみられる。なお、203・204、210・215・221、217・219・220、211・216・218はそれぞれ同一個体の可能性が高い。222～262は塞ノ神式土器である。口縁部は刺突や沈線、短沈線で横成された文様をもつ。235は沈線間に撚糸文が施されている。231・236は口縁部には特に施文がみられず、口唇部に羽状文が施されたもので、器形的な類似からここに置いた。また、口縁部の形状として内湾するものや直線的なもの、口縁部の中位で内折するものがある。胴部は沈線や刺突文、撚糸文、網目撚糸文、沈線間に撚糸文を施すものがみられる。なお、222・223、228・239、249・250は同一個体の可能性が高い。256～262は底部で、すべて平底である。263・264は外面に貝殻復線による押圧文が施されたもので下剥峰式土器とみられる。265・266・270は無文の壷形土器で、265の内外面には赤色顔料の付着がみられる。267は小型の土器で、外面に竹管状の刺突文がみられる。268は内外面は無文だが、口唇部に間隔をおいて撚糸文が施されている。269は外面に撚糸文が施された深鉢の頸部付近で、器形的には手向山式土器と類似したものになる可能性がある。271～274は底部ですべて平底状を呈し、273には穿孔がみられる。275は土器片錘、276はわずかに湾曲し、その外面に細い沈線による文様が施されたもので、土器に付属するものであるのか、単独の装飾土製品であるのか判断できない。

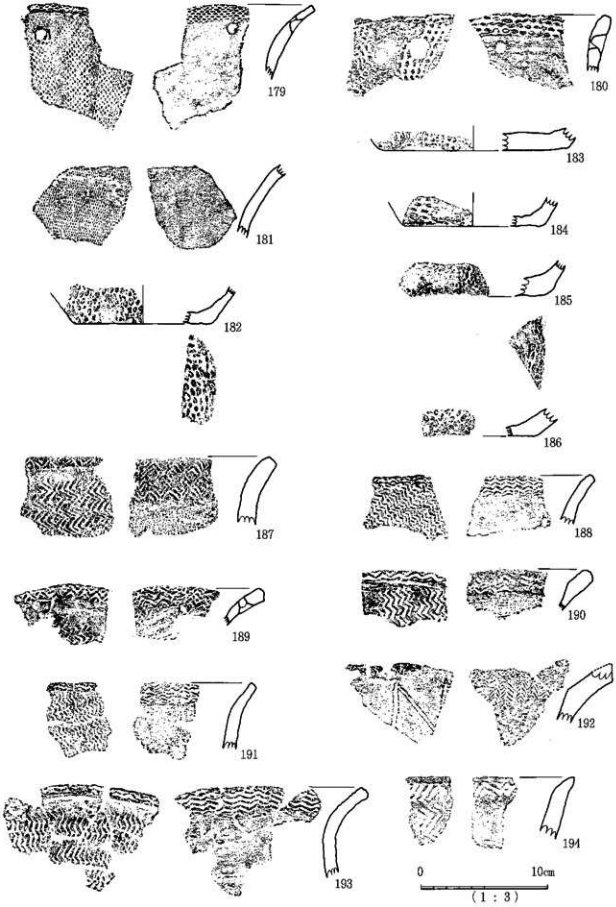
277～306は石器である。277～294は石鏃であり、縦長の二等辺三角形のものから正三角形に近いもの、また基部の抉りが深いものから窪む程度のものまで多様である。295は形状的には石鏃に類似するが先端部が尖らず、脚部を明瞭に造出した後全体を磨いており、いわゆるトロトロ石器とみられる。296・297・はスクレイパー、298・300は石核である。299は二次加工剥片、301は使用痕剥片である。302は縦長、303は横長の石匙とみられる。304・305は磨石、306は磨製石斧の刃部片である。



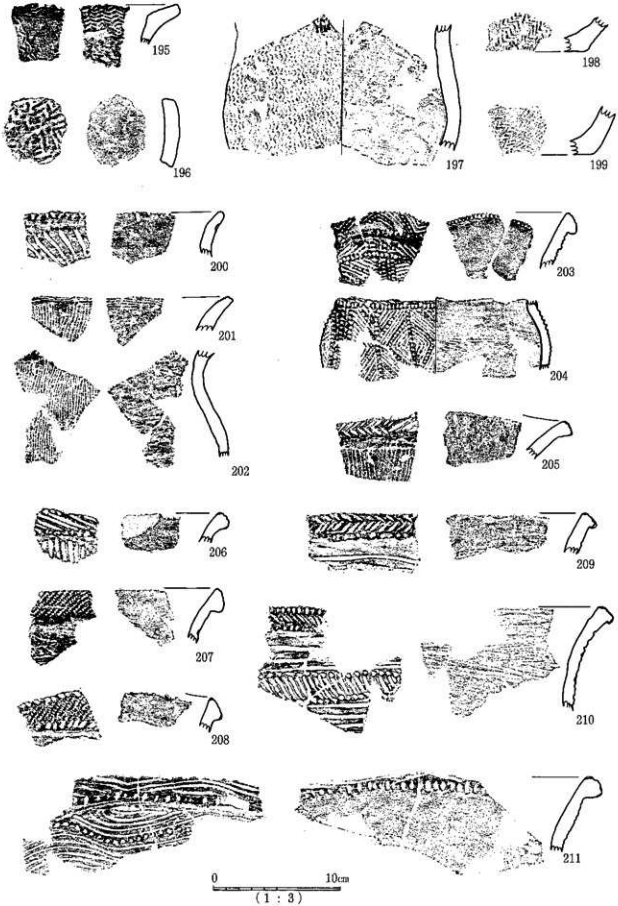
第19図　Ⅲ区出土遺物①（1／3）



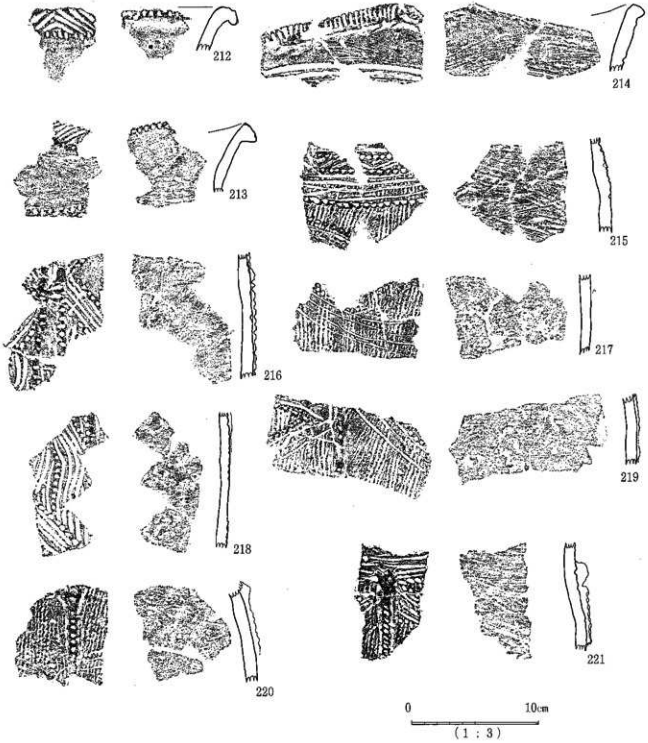
第20図　Ⅲ区出土遺物②（1／3）



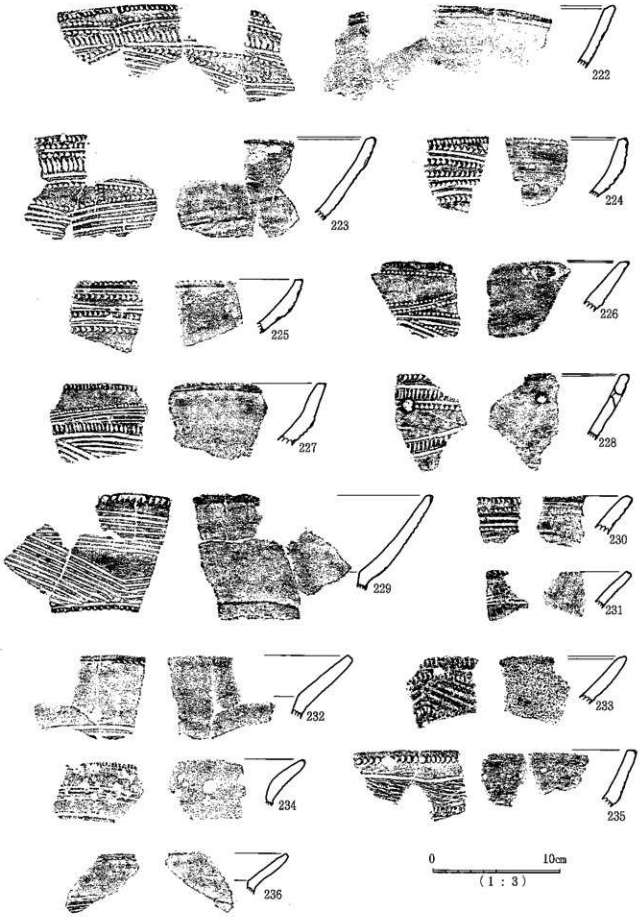
第21図　Ⅲ区出土遺物③（1／3）



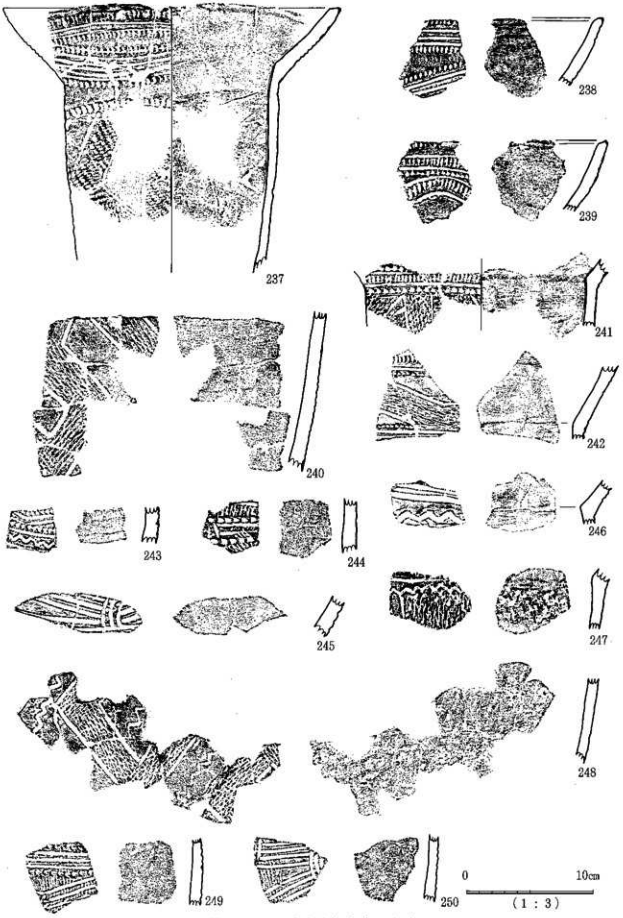
第22図　Ⅲ区出土遺物④（1／3）



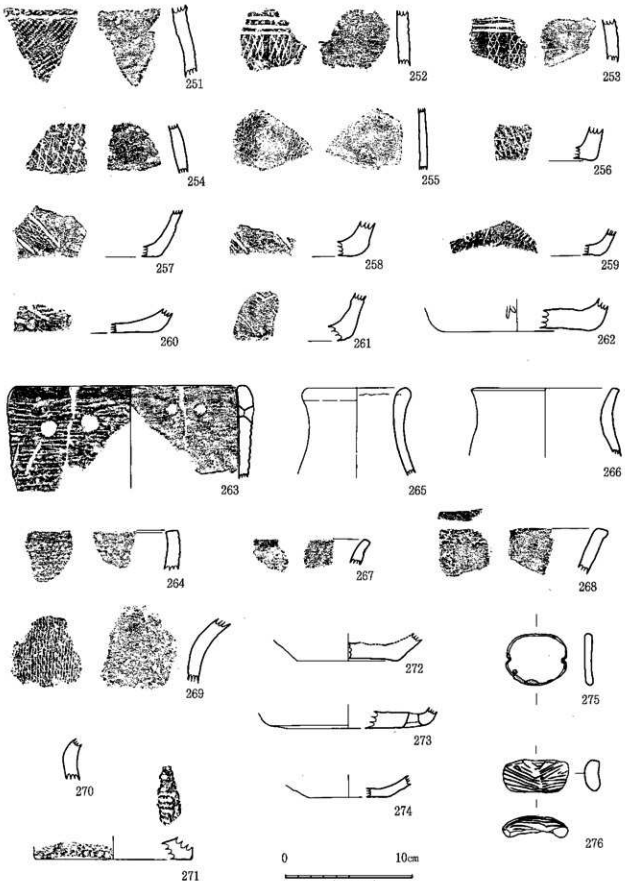
第23図　Ⅲ区出土遺物⑤（1／3）



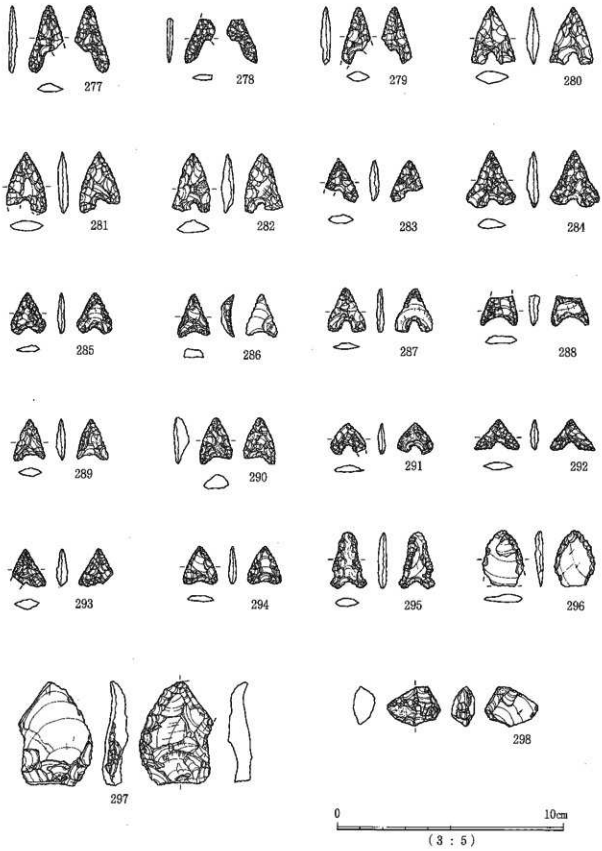
第24図　Ⅲ区出土遺物⑥（1／3）



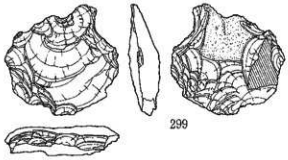
第25図　Ⅲ区出土遺物⑦（1／3）

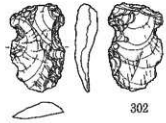


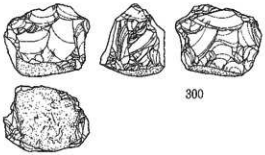
第26図　Ⅲ区出土遺物⑧（1／3）

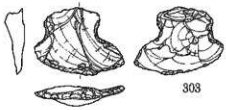


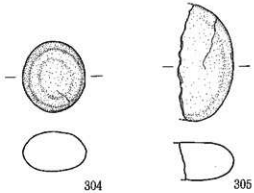
第27図　Ⅲ区出土遺物⑨（3／5）

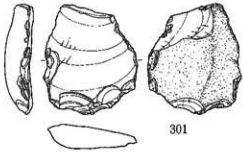


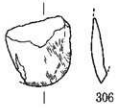












0 10cm
(1：2)
0 20cm
(1：4)

第28図　Ⅲ区出土遺物⑩（1／2・304と305は1／4）

遺物番号	種別	器種	部位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様はか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
1	縄文土器	深鉢	胴部	I区				山形押形文 凹線文 ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄 明で光沢のある粒を含む	5mm以下の褐灰・浅黄橙・灰褐・透	
2	土師器	椀	口縁部～胴部	1号住地	(33.0) [12.0] (22.5)			工具によるナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の灰白・褐・黒・茶褐の粒を含む	
3	土師器	椀	口縁部	1号住地	(22.2)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	橙	にぶい黄橙	1.5～4mmの茶・褐・黒・乳白色の粒を含む	
4	土師器	椀	口縁部～胴部	1号住地	(23.4)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	橙	浅黄橙	4mm以下の褐灰・灰黄・灰白の粒を含む	
5	土師器	椀	口縁部～胴部	1号住地				ナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	0.5～5mm以下の褐色	
6	土師器	椀	口縁部～胴部	1号住地				ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～5mmの灰白・褐灰白の粒を含む	
7	土師器	坏	胴部～底部	1号住床		(6.1)		回転ナデ	回転ナデ	明褐灰	にぶい橙	4.5mm以下の褐・赤褐・灰白の粒を含む	
8	土師器	坏	胴部～底部	1号住床		(6.95)		回転ナデ ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	きめ細か	底部はヘラキリ
9	内黒土器	椀	口縁部	1号住出				ミガキ 粗いナデ	ミガキ	黒	にぶい黄	1mm以下の褐色の粒を含む	
10	土師質土器	鉢	口縁部～胴部	1号住出	(16.95)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒色の粒を含む	
11	土師質土器	鉢	口縁部～胴部	1号住出	(13.8)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	3mm以下の灰褐色 褐色の粒を含む	製塩土器
12	土師質土器	鉢	口縁部～胴部	1号住出	(15.6)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	1～5mmの橙の粒を含む	製塩土器
13	土師器	甕	口縁部～底部付近	2号住出	(24.6)			ナデ ハケ目	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい橙	5mm以下の灰色・灰黄褐色・橙色・灰褐色・赤褐色・灰白色の粒を含む	
14	土師器	甕	口縁部	2号住床	(22.8)			ナデ	ナデ	浅黄 浅黄橙	浅黄橙	0.5～4mmの黒・褐色・灰色の粒を含む	
15	土師器	甕	口縁部～胴部	2号住出	(17.6)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの灰褐 赤褐の粒を含む	
16	土師器	甕	口縁部～胴部	2号住出				ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい橙	にぶい橙	4.5mm以下の橙赤褐・褐の粒を含む	
17	土師器	甕	口縁部～胴部	2号住埋				ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒色・褐色・灰色の粒と透明のガラス質の粒を含む	外面に砂とスス付着痕・側部
18	土師器	甕	口縁部～胴部	2号住出	(21.35)			ナデ 指押さえ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	きめ細かな光沢微細粒を含む	
19	土師器	甕	片口鉢 胴部～底部	2号住埋		(12)		ナデ方向の工具ナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄橙	5mm以下の赤褐色と2mm程の褐色と0.5mm以下の無色透明に光る粒を含む	
20	土師器	坏	完形	2号住出	13.1	5.5		回転ナデ ナデ	回転ナデ	橙	橙	きめ細か	底部はヘラキリ
21	土師器	坏	完形	2号住出	14.9	7.2		回転ナデ ナデ	回転ナデ	橙	橙	1mm以下で乳白色の粒を含む	底部はヘラキリ
22	土師器	坏	胴部～底部	2号住床		(8.7)		回転ナデ ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙	浅黄	0.5mm以下の黒・黄灰色の粒を含む	底部はヘラキリ
23	土師質土器	鉢	口縁部	2号住埋				ナデ 指押さえ	布目圧痕	にぶい橙	浅黄	きめ細か	
24	土師質土器	鉢	口縁部	2号住出				ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	12mm以上の橙の粒を含む	
25	不明	土器片錘		2号住出	最大径 2.75	最大巾 3.75	最大厚 0.8	ナデ	ナデ	灰黄	灰	9mm以下の橙の粒を含む	
26	内黒土器	坏	完形	2号住床	(8)	3.5 (3.2)	2.85	ナデ 指押さえ ヘラケズリ	ミガキ	橙	黄灰	1.5mm以下の褐・黒・光沢粒を含む きめ細か	
27	須恵器	壺	胴部	3号住埋				ナデ 口然釉	ナデ	灰	灰	精良	
30	土師器	甕	完形	3号住埋	(37.5) [29.0] (26.2)	(5.8)	2.3	ナデ ハケ目	ナデ ヘラケズリ 指押さえ	橙 浅黄橙 にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	6mm以下の褐・赤褐黄色の粒を含む	
31	土師器	甕	完形	3号住埋	(29.7) [22.7] (22.15)		25.3	ナデ ハケ目	ナデ ヘラケズリ	橙	橙	6mm以下の褐灰・灰褐・明褐・灰と2mm以下の赤褐・黒色光沢粒を含む	
32	土師器	甕	口縁部	3号住床				ナデ ハケ目	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	5mm以下の褐・灰白色の粒を含む	
33	土師器	甕	口縁部	3号住床				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい橙	透明・半透明のガラス質の粒と3mm以下の褐色 3mm大の褐色の粒を含む	
34	土師器	甕	底部	3号住出				ナデ	ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mmの灰色 褐色の粒を含む	
35	土師器	甕	底部	3号住出		(7.2)		ナデ	ナデ	淡赤橙 にぶい黄橙	浅黄	0.5mm～2mmの褐色 4色の粒とガラス質の粒を含む	
36	土師器	甕	口縁部～胴部	3号住埋	(22.6)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	浅黄橙	浅黄橙 橙	3mm以下の褐色の粒を含む	
37	土師器	坏	完形	3号住埋	(13.75)	(7.5)		回転ナデ	回転ナデ ナデ	橙	橙	きめ細か	底部はヘラキリ
38	土師器	坏	口縁部	3号住出				回転ナデ	回転ナデ	橙	橙	精良 きめ細か	
39	土師器	高台付坏	口縁部～底部	3号住出	(15.8)	(7.2)		ナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の乳白色の粒を含む	
40	土師器	椀	口縁部	3号住出	(12)			ヘラケズリ	ナデ	橙	橙	1mmの透明の光沢のある粒と褐・明灰の粒を含む	
41	土師器	甕	完形	3号住出	(14)	10.4	2.1	回転ナデ	回転ナデ ナデ	橙	橙	精良 きめ細か	底部はヘラキリ
42	土師器	鉢	口縁部～胴部	3号住出	(23.4)			カキ目	ナデ ヘラケズリ	橙	橙	2.5mm以下の褐色 赤褐色 雲母状・1mm以下の粒を含む	
43	土師質土器	鉢	口縁部	3号住床	(13)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙 にぶい黄橙	橙	きめ細か 5.5mm以下の灰色 にぶい褐色の粒を含む	

遺物番号	種別	器種 器位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
44	土師質土器	鉢 口縁部	3号住居				ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	0.5mm～3mmの灰・にぶい橙・緑灰の粒を含む	
45	土師質土器	鉢 口縁部	3号住居				ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	きめ細か 5mm以下の褐・明・灰色の粒を含む	
46	内黒土器	鉢 口縁部～胴部	3号住居				ヘラケズリ ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	黒	きめ細か 微細な灰白・褐の粒を含む	
47	須恵器	壺 口縁部	3号住居				回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	精良	
48	須恵器	坏 底部	3号住居		(7.55)		回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	精良	底部ヘラキリ
49	須恵器	壺 口縁部	3号住居				ナデ 自然釉	ナデ 自然釉	灰	自然釉	精良	
50	須恵器	甕 胴部	3号住居				ナデ 格子目タタキ	ナデ 同心円当具痕	黄灰 灰黄	灰白	1mm以下のガラス質の粒を含む 精良	
51	須恵器	甕 胴部	3号住居				格子目タタキ	平行当具痕	灰白 灰黄褐	にぶい黄橙	0.5mm以下のガラス質の粒と褐色の粒を含む 精良	
52	須恵器	甕 底部	3号住居				格子目タタキ	ナデ 平行当具痕?	黄灰 灰白	灰白	1mm以下の褐色・黒灰色・ガラス質の粒を含む 精良	
53	縄文土器	不明 胴部	3号住居				縄撚痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	0.5mm の乳白色・灰色の粒と透明に光るガラス質の粒を含む粒を含む	
54	縄文土器	鉢 底部	3号住居				ナデ	ていねいなナデ	にぶい橙	黄灰	0.5mm以下の透明で黒く光る粒と褐色・白灰色の粒を含む	
55	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				貝殻条痕 刺突文	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい橙	透明黒色に光るガラス質の四片0.5mm～1mmの灰・褐色の粒を含む	波状口縁 外面スス付着
56	縄文土器	深鉢 胴部	I区				ナデ	貝殻条痕	橙	橙	1mm以下で透明の光沢粒と3mm以下で灰白の粒を含む	外面スス付着
57	縄文土器	深鉢 胴部	I区				刻突文 沈線 ナデ	貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	1mm以下で灰白色の粒を含む	外面スス付着
58	縄文土器	深鉢 胴部	I区				ナデ 貝殻条痕 沈線	貝殻条痕	赤褐	赤褐	2mm以下で灰白色の粒を含む	外面スス付着
59	縄文土器	深鉢 口縁部	I区	29.2			粗いナデ 結み目	貝殻条痕 ナデ	浅黄	淡黄	透明のガラス片少量 0.5mm～1mmの灰黒・黒褐色の粒を含む	外面スス付着
60	縄文土器	深鉢 口縁部	I区	(9.1)			貝殻条痕	ナデ	浅黄橙	浅黄 灰	3mm以下の褐・褐灰・黄褐色の粒と1mm以下の灰白透明光粒沢を含む	
61	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				ナデ	条痕文 ナデ	にぶい黄橙 黄灰	浅黄	1.5mm以下の灰白の粒を含む	
62	縄文土器	不明 胴部	I区				縄撚痕	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒色・茶褐色灰白の粒を含む	組織痕
63	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				ナデ 条痕文	条痕文	にぶい黄橙	橙	2mm以下の赤褐・明褐灰・灰白の粒と1mm以下の黒色光沢粒を含む	孔列文
64	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				粗いナデ	粗いナデ	浅黄橙	浅黄橙	6mm以下のにぶい褐灰白の粒を多く含む	孔列文
65	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰オリーブ	1.5mm以下の灰白の粒と1mm以下の透明光沢の粒を含む	孔列文 外面スス付着
66	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				粗いナデ	粗いナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の褐赤褐の粒1.5mm以下の黒・灰白・乳白色・黒色光沢粒透明光沢粒を含む	孔列文
67	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				粗いナデ	粗いナデ	浅黄橙	浅黄橙	3.5mm以下の黄灰黒・明赤褐・灰色の粒と1mm以下の透明光沢粒を含む	孔列文
68	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				ナデ	粗いナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	5mmの明赤褐・灰白の光沢のある粒を含む	孔列文
69	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				ナデ 条痕文	条痕文	灰	灰白	2mm以下の赤褐・灰白・乳白色の粒と1mm以下の黒色光沢・透明光沢粒を含む	孔列文
70	縄文土器	深鉢 口縁部	I区				ナデ	ナデ 指押さえ	黄灰	にぶい黄橙	1.5mm以下の淡黄・灰白・黄・橙・丸口色粒と1mm以下の黒色光沢透明光沢粒を含む	孔列文 縦A型羽状縄文
71	縄文土器	深鉢 胴部	I区				ナデ	ナデ	灰黄	黄灰	3mm以下の褐色の粒2mm以下の赤褐色灰白粒黄色赤褐色の粒1mm以下の黒色光沢粒を含む	孔列文 縦A型羽状縄文
72	縄文土器	深鉢 底部	I区				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	乳白色粒5mm以下の明赤褐色の粒と2mm以下の黒褐色の粒を含む	
73	縄文土器	深鉢 底部	I区				ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰白色の粒と1mm以下の透明で光沢の粒を含む	
74	縄文土器	深鉢 底部	I区		(8.1)		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	透明でガラス質の粒と黒色・乳白色・褐色の粒を含む	
75	縄文土器	高台付鉢 高台	I区				ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	2.5mmの黄橙色の粒を含む	底かし
76	縄文土器	浅鉢 口縁部	I区				ナデ	ナデ	浅黄	黄橙	6mm以下の黒・灰白・灰の粒と2mm以下の橙・明黄色の粒と1mm以下の黒色光沢、透明光沢粒を含む	
77	縄文土器	浅鉢 口縁部	I区				ミガキ	ミガキ	黒褐・橙	黒褐	4.5mm以下の灰白の粒を含む	磨研土器
78	縄文土器	浅鉢 口縁部～胴部	I区	(12.9)			ミガキ	ミガキ	黄灰 にぶい黄橙	黄灰	1mm以下の黒色・灰白の粒を含む	磨研土器
79	縄文土器	浅鉢 胴部	I区				ナデ	ナデ 指押さえ	灰黄	灰白	3mm以下の灰白・灰・黒色の粒と3mm以下の黒色光沢、透明光沢粒を含む	磨研土器
80	縄文土器	浅鉢 口縁部	I区				ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	透明・黒色に光るガラス質の粒と0.5mmの灰色の粒を含む	磨研土器
81	縄文土器	浅鉢 口縁部	I区				ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	1mmの褐色の粒と透明に光るガラス質の粒を含む	磨研土器
82	縄文土器	浅鉢 口縁部	I区				ミガキ 沈線文	ミガキ	灰黄	灰黄	0.5mmの乳白色の粒を含む	磨研土器
83	縄文土器	浅鉢 胴部～胴部	I区				ミガキ	ミガキ	浅黄	浅黄	精良 (微細な光沢粒を含む)	磨研土器
84	縄文土器	浅鉢 胴部～胴部	I区				ミガキ	ミガキ	灰黄褐	オリーブ黒	1.5mm以下の乳白色の粒を含む	磨研土器

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
85	縄文土器	浅鉢 頸部	Ⅰ区				ミガキ 工具痕		にぶい黄橙	浅黄	微良 (1mm以下の黒色・透明光沢粒を含む)	砥研土器
86	土師質土器	甕 口縁部	Ⅰ区	(21.6)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	橙	3.5mm以下の灰鉱・灰・黄灰色の粒と1mm以下の赤黒色光沢粒を含む	
87	土師質土器	甕 口縁部～胴部	Ⅰ区	(19)			ナデ ケズリ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	7mm以下の黄灰・褐灰・灰色の粒を含む	
88	土師質土器	甕 口縁部～胴部	Ⅰ区				ナデ 工具痕	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	5mm以下の赤褐色の粒と4mm以下の灰色の粒を含む	
89	土師器	甕 口縁部～底部	Ⅰ区				回転ナデ ヘラ切り痕	回転ナデ	橙	橙	きめ細か	
90	土師器	坏 口縁部～底部	Ⅰ区	(12) 12.4	(6.5)		回転ナデ	回転ナデ	橙 浅黄橙	橙 浅黄橙	きめ細か	底部 ヘラ切り後ナデ
91	土師器	坏 完形	Ⅰ区	(13.7) 13.85	(7.7)	3.7	回転ナデ	回転ナデ	橙 黄橙	橙 黄橙	1.5mm以下の黒色の粒を含む	底部 ヘラ切り後ナデ
92	土師器	坏 口縁部～底部	Ⅰ区	(13.9)	(9.2)		回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	橙	きめ細か	底部 ヘラ切り後ナデ
93	土師器	坏 底部	Ⅰ区		8.0		回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	橙	きめ細か	底部 ヘラ切り後ナデ
94	土師器	椀 口縁部～底部	Ⅰ区	(13.0)	(6.6)	3.95	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ 指押え後ナデ	橙 にぶい橙	浅黄橙	0.5mm以下の光沢のある白色の粒を含む	体部に沿道状ヘラケズリ
95	土師器	坏 口縁部～底部付近	Ⅰ区	(17.15)			回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	きめ細か	
96	土師器	土師皿 胴部～底部	Ⅰ区		(7.1)		ナデ	回転ナデ	橙	橙	きめ細か	底部 ヘラ切り後ナデ
97	内黒土器	椀 口縁部～胴部	Ⅰ区	(19.4)			ケズリの後ミガキ	ミガキ	橙	黒	1mmの灰白の粒を含む	
98	内黒土器	椀 口縁部～底部	Ⅰ区				ナデ	ミガキ	にぶい黄橙	黒	きめ細か	
99	内黒土器	椀 口縁部～胴部	Ⅰ区				ミガキ ケズリ	ミガキ	黄橙	黒	1mmの褐灰色の粒を含む	
100	内黒土器	椀 口縁部～胴部	Ⅰ区				ミガキ ケズリ	ミガキ	浅黄橙	黒	8mmの赤褐色の粒、2mmの褐灰色の粒を含む	
101	内黒土器	椀 口縁部～胴部	Ⅰ区				ケズリ	ミガキ	にぶい黄橙	暗灰	精良	
102	土師器	坏 口縁部～底部	Ⅰ区	(13.0)	(7.2)		ケズリ ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の灰白の粒を含む	
103	内黒土器	椀 胴部～底部	Ⅰ区		(7.8)		ナデ	ミガキ	にぶい黄橙	黒	2mm以下の褐色の粒を含む	
104	内黒土器	椀 胴部～底部	Ⅰ区		(8.9)		ケズリ ナデ	ミガキ	にぶい橙	黒	1.5mm以下の褐色・黒色・灰白色の粒を含む	
105	内黒土器	鉢 口縁部～胴部	Ⅰ区						にぶい黄橙	暗灰	精良	
106	土師器又は須恵器	甕	Ⅰ区	(15.2)			回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の茶褐色の粒を含む	
107	土師質土器	鉢 口縁部～胴部	Ⅰ区	(9.7)			ナデ	布目圧痕	にぶい橙	橙	3.5mm以下の赤褐色粒、2mm以下の淡白色粒、透明褐色光沢粒を含む	製塩土器
108	土師質土器	鉢 口縁部～胴部	Ⅰ区	(15.4)			ナデ	布目圧痕	橙	橙	2mm以下の白色の粒、5mm以下の橙色の粒、7mm以下の灰色の粒を含む	製塩土器
109	土師質土器	鉢 口縁部～胴部	Ⅰ区	(12.1)			ナデ	布目圧痕	にぶい黄橙	橙	7.5mm以下の黒色の粒、4.5mmの黄灰色の粒、5mm以下のにぶい黄褐色の粒を含む	製塩土器
110	土師質土器	鉢 口縁部～胴部	Ⅰ区				ナデ 指押え	布目圧痕	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい橙 にぶい黄橙	精良	製塩土器
111	土師質土器	鉢 底部	Ⅰ区				ナデ	布目圧痕	橙	橙	6.5mm以下の褐色の粒を多く含む	製塩土器
112	須恵器	甕 胴部	Ⅰ区				タタキ	同心円当具痕 平行当具痕	暗黄灰	暗黄灰	精良	
113	須恵器	甕 底部付近	Ⅰ区				ナデ 自然釉	ナデ	灰オリーブ オリーブ黒	灰	精良	
114	須恵器	甕 底部	Ⅰ区		(15.3)		ナデ ケズリ	ナデ	にぶい黄橙 灰	にぶい橙	精良	
115	土師器	甕 底部	Ⅰ区		(4.2)		ナデ	ナデ 指押え	橙	橙	3mm以下の褐色の粒、2mm以下の黒色光沢粒、乳白色粒を含む	平底 底部要黒斑
116	土師器	甕 胴部～底部	Ⅰ区		(7.05)		ミガキ	ハケ目 ナデ 指押え	淡黄	灰白	1mm以下の淡黄色の粒、0.5mm以下の光沢粒、灰褐色黒色の粒を含む	平底式 内面黒斑
117	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅱ区				山形押型文 沈線文	山形押型文	淡黄	暗灰黄	2mm以下の灰白色の粒、1mm以下の光沢粒を含む	平底式
118	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅱ区				縄み目文 ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	1mm以下の淡黄・赤褐色粒・透明黒色光沢粒を含む	平形式 内面黒斑
119	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅱ区				縄み目 ナデ 連続刺突文	ナデ	橙 にぶい黄橙	橙	3.5mm以下の赤褐色粒、1mm以下の淡黄・褐色粒、透明光沢粒、0.5mm以下の黒色粒を含む	平形式
120	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅱ区				貝状工具による連続刺突文 結束状突帯	ナデ	にぶい黄橙	黄橙	3mm以下の淡黄粒、1mm以下の赤黄色粒、0.5mm以下の透明光沢粒を含む	大波ヶ峠式 内面スス付着
130	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅱ区				縄み目 沈線文 刺突連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	3mm以下の金色の粒、1.5mm以下の乳白色の粒を含む	平形式 内面黒斑
131	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅱ区				沈線文 刺突連点文 ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の透明金粒を含む	平形式 内面黒斑
132	縄文土器	深鉢 頸部	Ⅱ区				沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰白色の粒、1mm以下の透明の光沢粒を含む	小判山式
133	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅱ区				連点文 刺し痕跡	ナデ	にぶい赤褐	赤褐	1mm以下の透明金粒を含む	平形式
134	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅱ区				沈線文 連続連点文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の金色の粒、1mm以下の乳白色の粒を含む	平形式

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土 外面	胎土 ナデ	色調 外面	色調 内面	胎土の特徴	備考
135	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				ナデ 沈線文 熱糸文	ナデ	内面	にぶい橙	透明・赤褐明・黒色のガラス質の砂、ごく少量の褐色・灰白色の粒を含む	波ノ神式
136	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅱ区				ナデ 結節縄文	ナデ	浅黄 にぶい橙	にぶい黄橙	透明のガラス質の砂、黒色のガラス砂粒、2mm以下の褐色・赤白色・黒色の粒を含む	平棚式 波ノ神式
137	縄文土器	深鉢 底部付近	Ⅱ区				ナデ 刺目熱糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白色・橙の粒を含む	波ノ神式
147	縄文土器	深鉢 口縁部	14号竪穴				梅円押型文	ナデ	にぶい黄 黄褐	にぶい黄	1mm以下の乳白色・透明な粒、1mm以下の透明に近る粒を含む	押円 押形文
148	縄文土器	深鉢 底部	19号集石				ナデ 山形押型文	ナデ 指押え	にぶい赤褐	にぶい黄橙	1mm以下の乳白色・透明な粒を含む	山形押形文
149	縄文土器	深鉢 口縁部～頸部	Ⅲ区	(17.8)			ナデ 熱糸文	橙 にぶい黄橙	暗灰黄	浅黄	2mm以下の褐色の砂粒、0.5mm以下の白色・黒色に光る粒を含む	熱糸文
150	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				ナデ 変形熱糸文	ミガキ	浅黄	浅黄	1.5mm以下の透明に光る粒、1mm以下の褐色の光る粒を含む	熱糸文
151	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	Ⅲ区				ナデ 変形熱糸文	ナデ	にぶい橙 灰黄	灰黄	3mm以下の褐色・白色の粒、1mm以下の透明に光る粒、黒く光る粒を含む	熱糸文
152	縄文土器	深鉢 口縁部～頸部	Ⅲ区	(17.5)			ナデ 熱糸文	ナデ 熱糸文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2.5mm以下の黒(白)色・黒色・茶色の粒、1mm以下の透明と黒く光る粒を含む	熱糸文
153	縄文土器	深鉢 口縁部～底部	Ⅲ区		(6.66)		ナデ 押型文	ナデ	にぶい橙	橙 褐灰	1mm以下の褐色透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	押形文 撚孔
154	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	透明・半透明ガラス質の砂、黒の光沢のある粒、2mm以下の白色・褐色・灰白色の粒を含む	押形文
155	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				ナデ 押型文	ナデ 押型文	にぶい黄橙	にぶい黄	2mm以下の金色の粒、1mm以下の灰色、灰白色・灰褐色の粒を含む	押形文
156	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ 押型文	灰褐 灰黄褐	にぶい黄橙	金色の粒、1mm以下の灰白色・褐色の粒を含む	押形文
157	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ 押型文	黄灰 灰黄	にぶい黄	黒色・金色の光沢のある粒、1mm以下の黒褐・灰白色の粒を含む	押形文
158	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ	灰黄褐 灰	灰	黒色・金色の光沢のある粒、1mm以下の白色・灰褐色・黒褐色の粒を含む	押形文
159	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				押型文	ナデ	褐	にぶい褐	2mm以下の灰白色・橙色の粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	押形文
160	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	2mm以下の灰白色・灰色の粒、0.5mm以下の金色光沢粒を含む	押形文
161	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい褐	灰	1.5mm以下の灰白色、橙色の粒、1.5mm以下の金色の光沢粒を含む	押型文 外面文様 内面文様
162	縄文土器	深鉢 頸部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	2mm以下の灰白色、灰色・褐色の粒、1.5mm以下の金色・透明光沢粒を含む	押形文 撚孔
163	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区				磨糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	2mm程の浅黄色・灰(白)色の粒を多く含む	
164	縄文土器	深鉢 口縁部～頸部	Ⅲ区	(21.1)			梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰(白)・褐色の粒、1mm以下の金色の光沢粒を含む	縦横押型 外面文様帯 内面文様帯
165	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区	(21.0)			梅円押型文	梅円押型文 ナデ	浅黄	浅黄	1.5mm以下の灰白・褐色の粒を含む	梅円押型文 外面文様帯 内面無文
166	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の乳白色の粒、1mmの金色の粒を含む	梅円押型文 撚孔
167	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい黄	浅黄	2mm以下の金・透明の光沢粒、灰・黄灰・赤・乳白色の粒を含む	梅円押型文 内面無文
168	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい黄橙	橙	3mm以下の黄褐・灰白色の粒、1.5mm以下の金色の粒を含む	梅円押型文 外面文様帯
169	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	透明な光沢粒、3mm以下の黄灰・灰・黒色の粒を含む	梅円押型文 外面無文
170	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	浅黄	明黄褐	透明な光沢粒、3mm以下の黒・灰・茶・乳白色の粒を含む	梅円押型文 内面無文
171	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	黒色のガラス質の粒、2mm以下の黒色・灰色の粒を含む	梅円押型文	梅円押型文
172	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文 ナデ	梅円押型文 ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	半透明黒色光沢粒、2mm以下の灰・茶・黒色の粒を含む	梅円押型文
173	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	透明・黒色の光沢のある粒、2mm以下の黒・灰・灰～茶色の粒、6mm大の粒を1～2含む	梅円押型文 外面文様帯
174	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい橙	橙 にぶい黄橙	2mm以下の透明・黒色の光沢粒、灰・褐、灰白、黄灰の粒を含む	梅円押型文
175	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の金色の粒、灰白、浅黄褐、灰褐の粒を含む	梅円押型文
176	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい橙	黄灰	黒色のガラス質の砂、1mm以下の褐・灰・黒色の粒を含む	梅円押型文
177	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文 ナデ	梅円押型文 ナデ	橙	にぶい黄橙	透明・黒色の光沢粒、2mm以下の黒・灰・茶色の粒を含む	梅円押型文
178	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文 刺み目	梅円押型文 ナデ	にぶい橙	黒色のガラス質の粒、2mm以下の灰 にぶい黄橙 白・灰褐・褐・黒褐色の粒を含む	梅円押型文	梅円押型文
179	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区	(18.8)			梅円押型文	梅円押型文 ナデ	浅黄	浅黄	1mm以下の乳白色の粒を含む	梅円押型文 撚孔
180	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				梅円押型文	梅円押型文 ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の透明光沢粒、1.5mm以下の乳白色・白の粒を含む	梅円押型文 撚孔
181	縄文土器	深鉢 頸部	Ⅲ区				梅円押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金色の粒、透明に光る粒、2mm以下の灰白・灰褐色の粒を含む	梅円押型文 内面無文
182	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区		(11.0)		梅円押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	3mm以下の透明・金色の光沢のある粒、灰白・灰褐・浅黄・浅黄橙色の粒を含む	梅円押型文 内面無文
183	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区		(14.9)		梅円押型文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	3mm以下の透明・金色の光沢のある粒、灰白・浅黄・浅黄色の粒を含む	梅円押型文 内面無文
184	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区		(11.1)		梅円押型文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の金色の粒、灰白・浅黄褐・灰褐の粒を含む	梅円押型文 内面無文

遺物番号	種別	器種 部位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
185	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(15.0)		梅川押型文 ナデ	ナデ	灰黄	灰黄黄灰	2mm以下の浅黄色の粒、白色透明の光沢のある粒、黒色の光沢のある粒を含む	梅川押型文 内面黒変
186	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(8.7)		梅川押型文 ナデ	風化のため不明	にぶい黄褐	褐	3mm以下の浅黄色の粒、1mm以下の黄色の粒、白色透明の光沢のある粒を含む	梅川押型文
187	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文	山形押型文 ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	4mm以下の灰・乳白色の粒、透明・黒色の光沢のある粒を含む	山形押型文
188	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文	山形押型文 ナデ	明黄褐	明黄褐	中速微な光沢のある粒、2mm以下の灰・茶灰色の粒を含む	山形押型文
189	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	灰黄	灰黄	2mm以下の透明・金色の光沢のある粒、3mm以下の黄灰・灰色の粒を含む	山形押型文 器孔
190	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文	山形押型文 ナデ	にぶい黄	にぶい黄	1.5mm以下の灰色の粒を含む	山形押型文
191	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文	山形押型文 ナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の乳白色の粒を含む	山形押型文
192	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	褐	褐	1mm以下の乳白色の粒、1mmの金色の粒を含む	山形押型文 繊維反は炭素
193	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の浅黄色の粒、3mm以下の茶・灰色の粒、透明・黒色の光沢のある粒を含む	山形押型文 繊維反は炭素
194	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の乳白色・赤褐の粒を含む	山形押型文 繊維反は炭素
195	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい黄	にぶい黄	2mm以下の灰白・褐灰色の粒、1mm以下の黒以下の金色の粒を含む	山形押型文 外面スス付着
196	縄文土器	円錐	Ⅲ区	(最大長) 5.9	(最大幅) 5.6	(最大厚) 1.55	山形押型文	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	3mm以下の灰白・にぶい橙・明赤褐の粒を含む	山形押型文 外面スス付着
197	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	Ⅲ区				山形押型文 指押え	ナデ	にぶい黄褐 にぶい橙	灰黄褐	3mm以下の灰白・にぶい橙・明赤褐・灰色・黒色の粒、透明・黒色の光沢のある粒を含む	山形押型文 外面スス付着
198	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区				山形押型文 指押え ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄褐	3mm以下の灰白・黒色の粒、金属母の粒を含む	山形押型文 外面スス付着
199	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	3.5mm以下の灰白・黄灰・灰褐・黒色光沢・透明光沢の粒を含む	山形押型文 外面スス付着
200	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				撚糸文 条痕 ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の乳白色の粒を含む	
201	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				条痕文	条痕文 ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の黒色透明の粒、1mm以下の無色透明の粒、3mm以下の灰色の粒を含む	202と同一個体
202	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	Ⅲ区				条痕文	横いナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	2mm以下の灰白・灰・黒色透明・茶色の粒を含む	
203	縄文土器	深鉢 口縁	Ⅲ区				押し刻み日文 沈線文 刺突連点文	丁寧なナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の黄色の粒、無色透明の光沢のある粒、透明、灰褐色の粒を含む	平栫式
204	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	Ⅲ区				刺突連点文	丁寧なナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の褐色の粒、無色透明の光沢のある粒、透明、灰褐色の粒を含む	平栫式
205	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文 ナデ 撚糸文	ナデ	橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤・灰黄、透明光沢、黒色光沢の粒を含む	内面黒変 平栫式
206	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				沈線文 押圧刻み	押圧刻み ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の白・乳白・茶色の粒を含む	内面黒変 平栫式
207	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				無赤文 単穿連点文 ナデ 沿押え	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の浅黄の粒を含む	内面黒変 北ち切り突起
208	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				無赤文 押圧刻み ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	1mm以下の白色の粒、2.5mm以下の白・乳白色の粒を含む	内面黒変 波状口縁
209	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文 押圧刻み日文 沈線文 ナデ	ナデ	橙	橙 浅黄	3.5mm以下の浅黄・灰・黒色透明の光沢のある粒、1mm以下の金色、黒色の光沢ある粒を含む	平栫式
210	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文・連続押圧 沈線 刺突連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の灰白・乳白色の粒を含む	平栫式
211	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				連続押圧文 沈線文 連続刺突文	連続押圧文 ナデ	橙	にぶい橙	2.5mm以下の金色粒、色透明の光沢のある粒、咸雲粒・灰白・灰褐の粒を含む	平栫式
212	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文 押圧刻み ナデ	押圧刻み ナデ	橙	にぶい黄橙	4mm以下の白色の粒、1mm以下の金属、白色の粒を含む	平栫式
213	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刺突連点文	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の浅黄・灰・乳白の粒、透明感の光沢のある粒、1mm以下の褐色の粒、黒色の光沢ある粒を含む	平栫式 波状口縁
214	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み目 沈線文 ナデ 刻み日突帯	ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 にぶい橙	2.5mm以下の透明の光沢のある粒、咸雲粒、灰白、灰褐の粒を含む	平栫式
215	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				連続刺突文 沈線文 撚糸文	ナデ	にぶい橙	橙	4mm以下の浅黄色の粒、1mm以下の金属母を含む	平栫式
216	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				刻み目突帯文 沈線文 刺突連点文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の金色の雲母、褐灰色の粒、0.5mm以下の黒色透明の粒を含む	平栫式
217	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				刺突連点文 沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2.5mm以下の浅黄・灰白・灰褐、黒色光沢・透明光沢の粒を含む	平栫式
218	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				刻み目突帯文 刺突連点文 指押え沈線	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の白色の雲母、褐色粒、0.5mm以下の黒色透明粒、3mm以下の赤色の粒を含む	平栫式
219	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				断面M字日刻み突帯 撚糸 沈線文 刺突連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	2.5mm以下の浅黄・灰白・灰褐、透明光沢のある粒を含む	平栫式
220	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				断面M字日刻み突帯 撚糸 沈線文 刺突連点文	ナデ 指押え	にぶい褐	にぶい褐	3mm以下の灰褐・灰白、浅黄金属母の粒を含む	平栫式
221	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				撚糸 刺突文 沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の黒白色の粒、2mmの灰白の粒を含む	平栫式
222	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み日文 刺突文 沈線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の白色の粒、1mm以下の黒色の粒を含む	轟の特式 外面スス付着
223	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み日文 刺突文 沈線文	ナデ	にぶい黄褐 灰黄	にぶい橙 灰黄褐	3mm以下の白色の粒、1mm以下の黒色の粒を含む	轟の特式
224	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				撚糸日文 撚糸文 沈線文 ナデ	ナデ	橙	橙	微細な透明・半透明黒色光沢の粒と2mm以下の灰・褐色の粒を含む	轟の特式 外面黒変
225	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み日文 刺突連 撚糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の灰白・褐色の粒と0.5mm以下の黒色光沢の粒を含む	轟の特式 外面スス付着

遺物番号	時代	器種・部位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
226	縄文土器	深鉢 口縁部	盲区				撚糸R L 連続刺突 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	微細な砂粒・多量無色透明の粒と1mm以下の黒・灰・黄灰の粒を含む	東ノ神式 外面無文
227	縄文土器	深鉢 L1縁部	盲区				撚糸R A目文 連続刺突 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	微細な砂粒・多量無色透明の粒と2mm以下の灰・褐色の粒を含む	東ノ神式 内面無文
228	縄文土器	深鉢 L1縁部	盲区				刺み目文 沈線刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の浅黄・乳白色の粒と透明の粒を含む	宮ノ神式 内外面無文
229	縄文土器	深鉢 L1縁部～胴部	盲区				刺み目 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒・灰色・透明に近い乳白色・茶色の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ
230	縄文土器	深鉢 L1縁部	盲区				刺み目文 沈線文 連続刺突文	ナデ	灰褐	にぶい褐	3mm以下の浅黄・黒・赤色の粒と1.5mm以下の浅黄・茶色の粒と透明光沢粒を含む	東ノ神式 外面無文
231	縄文土器	深鉢 L1縁部	盲区				羽状の押圧文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	1.5mm以下の浅黄・黒・乳白色・半透明の粒を含む	東ノ神式 外面無文
232	縄文土器	深鉢 L1縁部～胴部	盲区				押圧刺み目 沈線文 ナデ	ナデ	灰黄	にぶい黄橙	0.5mm以下の無色透明・浅黄・灰・灰白・黒・乳白色粒を含む	外面ユスリ付帯 東ノ神式
233	縄文土器	深鉢 L1縁部	盲区				刺み目文 沈線文 連続刺突文 ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	4mm以下の白色の粒と2mm以下の黒・褐色の粒を含む	東ノ神式
234	縄文土器	深鉢 L1縁部～胴部	盲区				刺み目文 沈線文 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	1mm以下の褐・灰白色の粒と0.5mm以下の透明光沢の粒を含む	東ノ神式
235	縄文土器	深鉢 L1縁部	盲区				押圧刺み目文 沈線文 連続刺み目文 無文	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	1mm以下の無色透明・灰白・淡黄の粒を含む	東ノ神式
236	縄文土器	深鉢 L1縁部	盲区				羽状刺み目文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰色の粒と1mm以下の透明・黒色光沢の粒・褐色の粒を含む	東ノ神式
237	縄文土器	深鉢 L1縁部～頸部	盲区	26.5			刺み目文 無文 貝殻連続刺突 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・茶色・褐色の粒と1.5mm以下の透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	外面ユスリ付帯 東ノ神式
238	縄文土器	深鉢 L口縁部	盲区				刺み目文 沈線文 連続刺突文 ナデ	ナデ	灰 灰黄	にぶい黄橙	微細な黒色透明に光るガラス質の粒と白色粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ痕
239	縄文土器	深鉢 口縁部	盲区				刺み目文 刺突文 沈線文	ナデ	灰黄	灰	微細な黒色透明に光る粒と3mm以下の灰白・灰褐・灰色の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
240	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				沈線文 撚糸文	ナデ	浅黄	浅黄	1.5mm以下の透明光沢の粒と1mm以下の浅黄褐色の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
241	縄文土器	深鉢 頸部	盲区				沈線文 撚糸文 連続刺突文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の透明光沢のある粒と灰白・浅黄・褐灰の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
242	縄文土器	深鉢 頸部	盲区				沈線文 撚糸文 連続刺突文	ナデ	浅黄	浅黄	微細な灰褐・浅黄橙の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
243	縄文土器	深鉢 頸部	盲区				連続刺突文 沈線文	ナデ	橙	にぶい黄褐	微細な透明、黒色光沢の粒と1mm以下の黒・灰・乳白色の粒を含む	東ノ神式 内面無文
244	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				連続刺突文 沈線文 撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	0.5mm以下の灰白・褐色・透明光沢の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
245	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				沈線文	ナデ	浅黄	浅黄	微細な砂粒・透明光沢の粒と3mm以下の黒・灰・黄褐・乳白色の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
246	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				沈線文 ナデ	ナデ	浅黄	灰黄	微細な灰白・浅黄・灰褐の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
247	縄文土器	深鉢 胴部～頸部	盲区				沈線文 撚糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色・黒色の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
248	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				沈線文 撚糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明黒色光沢の粒と2mm以下の灰・黄灰・乳白・茶の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
249	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				連続刺突文 撚糸文 沈線文	ナデ	浅黄	浅黄	微細な透明・半透明光沢の粒と1mm以下の灰白色の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
250	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				沈線文 撚糸文	ナデ	浅黄	浅黄	微細な半透明・黒色光沢の粒と1mm以下の灰・茶の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
251	縄文土器	深鉢 胴部～頸部	盲区				押圧刺み目結び変形 撚糸 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	3mm以下の褐色の粒と1.5mm以下の乳白色の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
252	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				撚糸 沈線文	ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	2mm以下の灰・灰白色の粒と1.5mm以下の透明光沢の粒を含む	東ノ神式 外面ユスリ付帯
253	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				網目撚糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい褐	橙 にぶい黄橙	1mm以下の金色に光る粒、および褐色・乳白色の粒を含む	東ノ神式
254	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色、5mm以下の褐・黄褐色の粒を含む	東ノ神式
255	縄文土器	深鉢 胴部	盲区				結束撚糸？ 撚糸文 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	0.5mm以下の褐色・透明光沢の粒を含む	東ノ神式
256	縄文土器	深鉢 底部	盲区				撚糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明の粒を多く含む	東ノ神式
257	縄文土器	深鉢 底部	盲区				撚糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰白・灰と無色透明の粒、3mm以下の浅黄の粒を多く含む	東ノ神式
258	縄文土器	深鉢 底部	盲区				撚糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	微粒～3mmの金色の光沢粒と灰白・灰褐・浅黄橙の粒を含む	東ノ神式
259	縄文土器	深鉢 底部	盲区				撚糸文 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の浅黄、1mm以下の無色透明の粒を多く含む	東ノ神式
260	縄文土器	深鉢 底部	盲区				撚糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄	灰黄	微細～3mm以下の灰白・浅黄橙・灰・褐の粒と透明で光沢のある粒を含む	東ノ神式
261	縄文土器	深鉢 底部	盲区				撚糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	きめ細かな微細な灰白・浅黄の粒と黒の光沢のある粒を含む	東ノ神式
262	縄文土器	深鉢 底部	盲区		(12.1)		沈線文 ナデ	ナデ	灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙	黒色・透明に光るガラス質の細片、2mm以下の白色・灰褐色の粒を含む	東ノ神式
263	縄文土器	深鉢 L1縁部～頸部	盲区	(18)			貝殻腹縁文？	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	微細な透明・半透明・無色光沢粒、灰・黄灰・乳白色の粒を含む	宮ノ神式 ト洞縁式
264	縄文土器	深鉢 L1縁部～頸部	盲区				刺突連点文	ナデ	橙	にぶい褐	微細な透明・半透明・無色光沢、2mm以下の黒・灰・赤灰・乳白粒を含む	宮ノ神式 ト洞縁式
265	縄文土器	鉢 口縁部	盲区	(8.7)			ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	3.5mm以下の透明・無色光沢粒と灰白・浅黄橙・灰褐色・褐の粒を含む	鹿形土器 内面赤色顔料
266	縄文土器	鉢 口縁部	盲区	(10.8)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄褐	3mm以下の透明・半透明黒・金色光沢粒、3mm以下の灰・乳白・褐色の粒を含む	

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	外面	内面	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
267	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				竹管文 ナデ	ナデ			灰黄	浅黄	1mm以下の透明の光沢のある粒と灰白・淡黄粒・灰褐の粒を含む	小型土器
268	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				撚糸押圧文 ナデ	ナデ			にぶい黄	にぶい黄橙	2mm以下の透明の光沢粒と淡黄橙・灰白・明赤褐・褐の粒を含む	外面スス付着
269	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				縄目撚糸文	ナデ			にぶい橙	灰黄	微細な黒色遺明に光る粒と3mm以下の灰白・黒色・灰色の粒を含む	平向山式？
270	縄文土器	無 頸部	Ⅲ区				ナデ	ナデ			橙	にぶい橙	2mm以下の透明・黒の光沢粒、灰白・灰褐・淡黄・橙・赤褐の粒を含む	
271	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区		(12.3)		押圧刻み目 ナデ	ナデ			にぶい橙	灰黄褐	2mm以下の淡黄・灰白・灰の粒を含む	
272	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区		(8)		ナデ	ナデ			にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の赤褐色の粒、3mm以下の淡黄・褐、2mm以下の微白・褐の粒を含む	
273	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区		(12.6)		ナデ	ナデ			にぶい黄	にぶい黄橙	1mm以下の透明・不透明・黒色・金色光沢粒、2mm以下の灰・黄灰・乳白色の粒を含む	夕孔 内面黒褐
274	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区		(6.6)		ナデ	ナデ			にぶい黄	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明・黒色で光沢のある粒を含む	
275	縄文土器	上器片錘	Ⅲ区	最大長 約4.5	最大巾 4.8	最大厚 0.6	ミガキ	ナデ			浅黄橙	浅黄橙 橙	微細な灰白・褐灰の粒を含む	
276	縄文土器	不明	Ⅲ区	最大長 5.15	最大巾 2.6	最大厚 1.7	ナデ	網沈線文			浅黄	浅黄	微細な黒色遺明に光る粒、1mmの褐色の粒を含む	堝底土製品？

遺物番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
28	2分住居	擦石	6.7	8.8	3.5	294	砂岩	
29	2分住居	敲石	21.6	6.6	4.8	1,100	砂岩	
118	Ⅰ区	石鏃	2.4	1.8	0.4	1.0	チャート	
119	Ⅰ区	石鏃	2.3	1.5	0.4	1.1	黒曜石	
120	Ⅰ区	石鏃	1.7	1.7	0.4	1.2	流紋岩	
121	Ⅰ区	石鏃	1.7	1.4	0.3	0.7	流紋岩	
122	2分住居	石鏃	2.9	2.3	0.9	3.8	流紋岩	
123	4号集石	石鏃	2.3	1.3	0.3	0.5	チャート	
124	Ⅰ区	スクレイパー	3.4	5.2	1.6	33.3	頁岩	
125	Ⅰ区	石核	9.5	8.4	5.2	850	流紋岩	
138	Ⅱ区	石鏃	3.1	1.8	0.6	2.3	流紋岩	
139	Ⅱ区	石鏃	2.7	1.7	0.6	1.7	流紋岩	
140	Ⅱ区	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.8	流紋岩	
141	Ⅱ区	異形石器	3.0	2.4	0.7	3.4	流紋岩	
142	Ⅱ区	石鏃	2.6	1.7	0.6	1.9	流紋岩	
143	Ⅱ区	石鏃	2.4	1.8	0.8	1.9	流紋岩	
144	Ⅱ区	石鏃	2.1	1.8	0.3	0.8	頁岩	
145	Ⅱ区	石鏃	1.6	1.4	0.5	0.6	流紋岩	
146	Ⅱ区	くぼみ石	8.8	5.6	4.8		砂岩	
277	Ⅲ区	石鏃	3.0	1.5	0.4	1.1	チャート	
278	Ⅲ区	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.6	チャート	
279	Ⅲ区	石鏃	2.5	1.3	0.4	1.0	チャート	
280	Ⅲ区	石鏃	2.6	1.9	0.6	1.6	流紋岩	
281	Ⅲ区	石鏃	2.7	1.8	0.5	1.7	流紋岩	
282	Ⅲ区	石鏃	2.6	1.7	0.6	1.6	流紋岩	

遺物番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
283	Ⅲ区	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.7	チャート	
284	Ⅲ区	石鏃	2.5	2.2	0.5	1.6	黒曜石	
285	Ⅲ区	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.6	黒曜石	
286	Ⅲ区	石鏃	1.9	1.4	0.6	0.8	チャート	
287	Ⅲ区	石鏃	1.9	1.7	0.3	0.7	チャート	
288	Ⅲ区	石鏃	1.3	1.6	0.5	0.9	チャート	
289	Ⅲ区	石鏃	1.8	1.4	0.4	0.7	チャート	
290	Ⅲ区	石鏃	2.0	1.4	0.7	1.4	黒曜石（鋸歯）	
291	Ⅲ区	石鏃	1.4	1.6	0.4	0.4	黒曜石（鋸歯）	
292	Ⅲ区	石鏃	1.4	2.0	0.4	0.6	チャート	
293	Ⅲ区	石鏃	1.7	1.5	0.5	0.7	黒曜石	
294	Ⅲ区	石鏃	1.7	1.5	0.4	0.7	チャート	
295	Ⅲ区	トロトロ石器	2.5	1.6	0.4	1.4	チャート	
296	Ⅲ区	スクレイパー	2.5	1.9	0.4	1.4	頁岩	
297	Ⅲ区	スクレイパー	4.6	3.3	1.2	15.2	チャート	
298	Ⅲ区	石核	1.8	2.4	1.0	3.2	黒曜石	
299	Ⅲ区	二次加工剥片	6.9	6.5	1.7	53.3	頁岩	
300	Ⅲ区	石核	3.9	4.6	3.4	70.8	頁岩	
301	Ⅲ区	使用痕剥片	5.9	5.0	1.4	46.1	頁岩	
302	Ⅲ区	石匙	4.7	2.9	1.2	13.6	チャート	
303	Ⅲ区	石匙	3.7	4.8	1.0	13.7	チャート	
304	Ⅲ区	擦石	7.4	6.6	2.2	304	凝灰質砂岩	
305	Ⅲ区	敲石	12.3	5.8	4.0	386	凝灰質砂岩	
306	Ⅲ区	磨製石斧	3.5	3.4	0.8	10	砂岩	

第3章　　まとめ

第1節　縄文時代早期の土器について

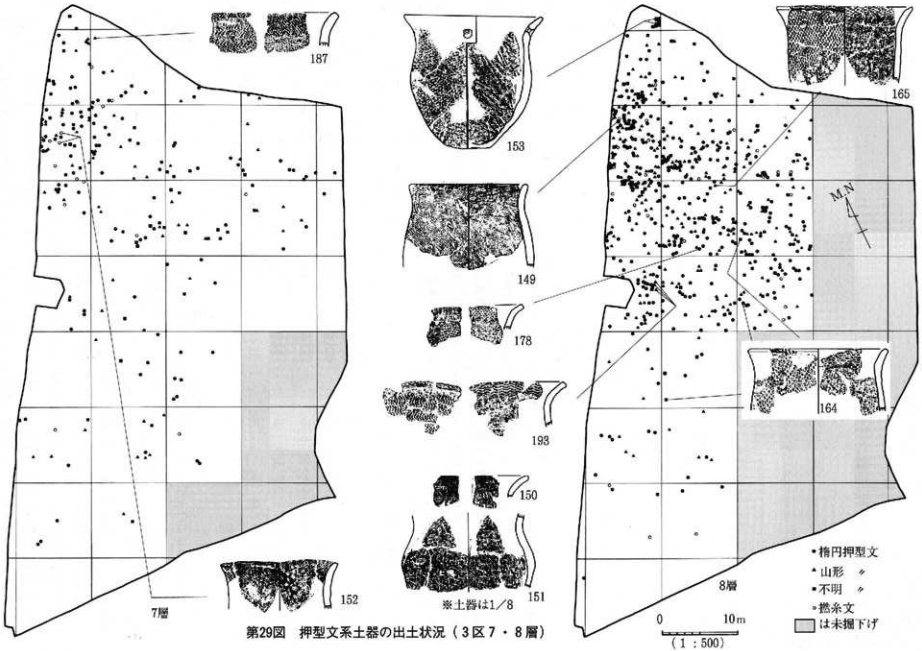
本遺跡ではⅠ～Ⅲ区すべての調査区で縄文時代早期の遺物を検出したが、中でもⅢ区西半でその大半が出土している。前章で述べたとおり、Ⅲ区の西側一帯は東九州自動車道建設に伴う白ヶ野遺跡の発掘調査が併行して行われており、数十基におよぶ集石遺構や多量の遺物が検出された。このことから遺構・遺物分布の中心は白ヶ野遺跡側にあり、両調査の成果を併せて検討しなければ遺跡のもつ情報を正しく理解することは不可能である。しかし、白ヶ野遺跡については現在整理調査中であり、本報告にその情報を反映させることは困難な状況である。したがって、ここでは本調査で出土した土器についてのみ検討することとし、白ヶ野遺跡の整理・報告に備えたい。

Ⅲ区の調査では6層を人力で除去した後、7層上面で地形測量を実施した。その結果、東側が高く、西側に向かって緩やかに下る地形を呈しており[1]、標高の低い西側ほど多くの遺物が出土する傾向がみられた。出土した土器は細片が多く、形式が判然としないものも多いが、大きくは下剥峰式土器、押型文土器、手向山式土器、平栫式土器、塞ノ神式土器、無文土器である。遺物包含層であった7・8層は色調の差が比較的明瞭で、この色調差をもとに各グリッドごとに掘り下げ、遺物の出土層位および出土地点を記録した。かなり小さな破片にいたるまでこの作業で取り上げたため、総数は 2,093点に及ぶ。この内、撚糸文土器と押型文土器、平栫式土器と塞ノ神式土器の分布状況を示したのがそれぞれ第29図・第30図で、左側が7層中、右側が8層中からの出土状況である。各型式の認定が可能であった破片総数は 1,531点で、各層における出土点数は以下のとおりである。

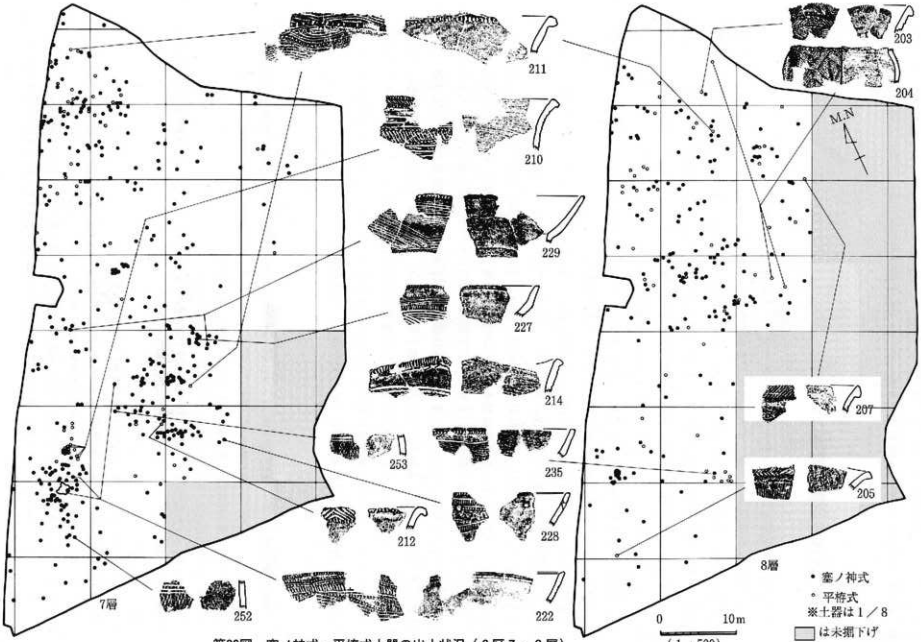
挿図	土器型式	出土総数	7層	8層
第29図	撚糸文土器	42点	16点（38%）	26点（62%）
	楕円押型文土器	498点	135点（27%）	363点（73%）
	山形押型文土器	287点	65点（23%）	222点（77%）
	原体不明押型文土器	42点	12点（29%）	30点（71%）
第30図	平栫式土器	106点	57点（53%）	49点（47%）
	塞ノ神式土器	556点	374点（67%）	182点（33%）

第29・30図および上記の表より押型文土器・撚糸文土器は8層から、平栫式土器・塞ノ神式土器は7層からより多く出土する傾向が読み取れる。また、平栫式土器は7層と8層における出土割合がほぼ均等であることもわかる。このことから、単純に判断すれば、撚糸文・押型文土器は平栫式・塞ノ神式土器よりも古く、平栫式土器は塞ノ神式土器よりも古い時期のものである可能性が考えられる。

平栫式や塞ノ神式を中心とする縄文時代早期後葉の土器については、その系譜や前後関係について様々な解釈がなされている[2]。今回の分析に用いた資料には手向山式土器・天道ヶ尾式土器は含まれていないが、押型文系の土器が平栫式・塞ノ神式土器よりも下層から出土する傾向が高い結果が得られ、このことは、押型文土器→（手向山式土器）→（天道ヶ尾式土器）→平栫式土器→塞ノ神式土器という編



第29図　押型文系土器の出土状況（３区７・８層）



第30図　塞ノ神式・平榕式土器の出土状況（3区7・8層）

年観を支持するものと考える。また、今回の分析では、傾斜地という立地条件等から垂直分布や同一層中における位置関係についての検討はできず、その点で若干説得力に欠ける。今後の課題としたい。

第2節　古代の遺構・遺物について

ここでは、本遺跡Ⅰ区で検出された竪穴住居および出土遺物について触れる。

竪穴住居は3軒検出されたが、すべてカマドを有するものであった。宮崎県内においてカマドを有する竪穴住居は以外に少なく、大半は古代のものである。1980～1986年に実施された宮崎学園都市遺跡群の調査[3]では7遺跡20軒のカマドを有する竪穴住居が検出されており、9～10世紀の年代が与えられている。特に陣ノ内遺跡ではカマドを有する竪穴住居9軒が検出され、カマドの構造を煙道の違いから2つのタイプに分けている。この2つのタイプは、本遺跡にみられたものと共通する。また、この報告では、遺物の時期を10世紀前半としており、住居間にさしたる時期差を想定していないため、煙道の形態差は単なる構造的相違であるのか、年代差であるのか不明瞭である。

本遺跡で検出された3軒の住居から出土した遺物は量的に少なく、あまり良好な一括資料とは言えないが、主要器種の形態に関して若干違いが伺える。1号住居出土の坏の口径・底径は小さく、2号→3号と大きくなる。また、口径・底径に対する器高は3号→2号→1号と高くなるとみられる。このような坏の形態、プロポーションの変化は熊本編年における6段階[4]太宰府編年[5]のⅥ期中の変化に相当すると考えられる。甕では3軒ともに丸底でくの字状の口縁部をもつが、器面調整が3号→2号→1号と簡素化されていく傾向がみられる。また、3号住居には共伴遺物として須恵器の供膳形態や甕、平底の土師器甕がみられる点で3軒の中では古い様相を呈している。以上のような坏・甕の形態差、共伴遺物の様相から3号住居→2号住居→1号住居という変遷が予想される。しかし、3号住居のタイプが異なる2つのカマドの存在や、遺物量の制約などかなり危険性をはらんだ想定であることは否めず、より良好な資料の蓄積を待って慎重に検討する必要がある。今後の課題としたい。

註

(1) 宮崎県埋蔵文化財センター 1997 「白ヶ野第3遺跡B地区」県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 (3)『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告』　第3集　第6図参照

(2) 河口貞徳 1985 「塞ノ神式土器と轟式土器」『鹿児島考古』19号　鹿児島県考古学会
新東晃一 1989 「塞ノ神・平栫式土器様式」「縄文土器大観」1　小学館
高橋信武 1997 「平栫式土器と塞ノ神式土器の編年」『先史学・考古学論究－熊本大学文学部考古学研究室創設25周年記念論文集－』Ⅱ　龍出考古会
ほか多数の文献あり

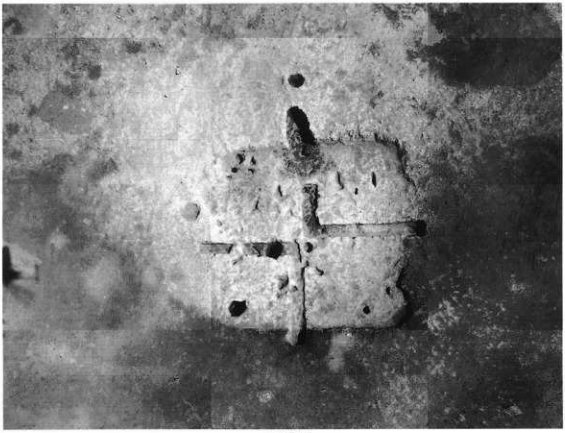
(3) 宮崎県教育委員会 1985 『宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書』第2集
宮崎県教育委員会 1985 「宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書」第3集
宮崎県教育委員会 1988 「宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書」第4集

(4) 網田龍生 1994 「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究」X　日本中世土器研究会

(5) 山本信夫 1988 「太宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ　日本中世土器研究会

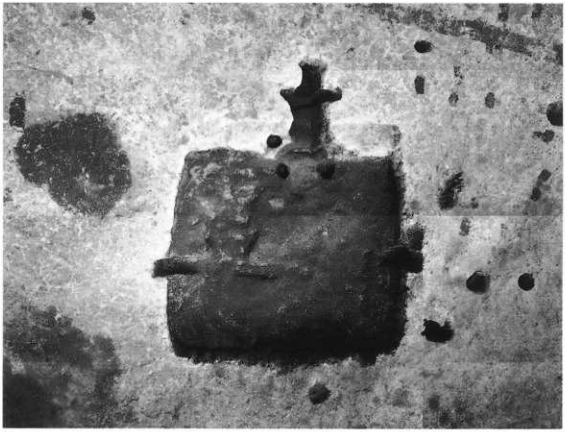
図版 1

調査区全景（南から、西側は白ヶ野遺跡）

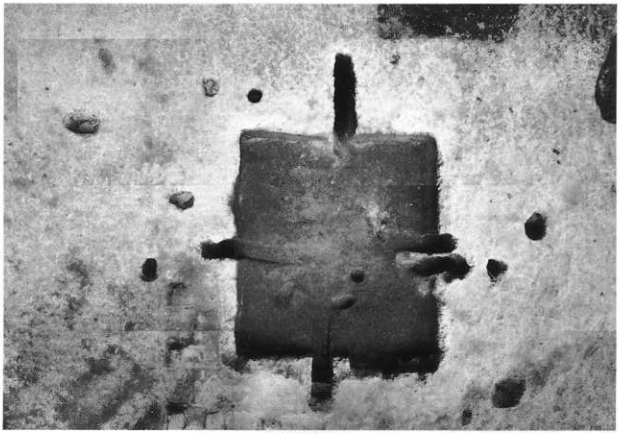


1号住居

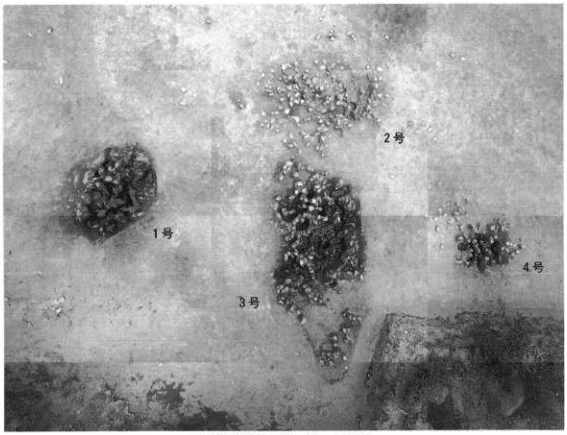
図版2



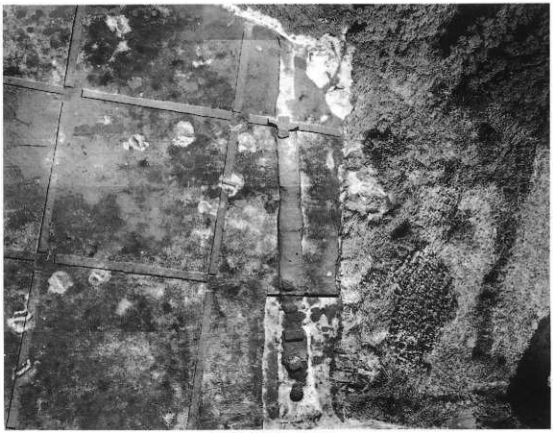
2号住居



3号住居

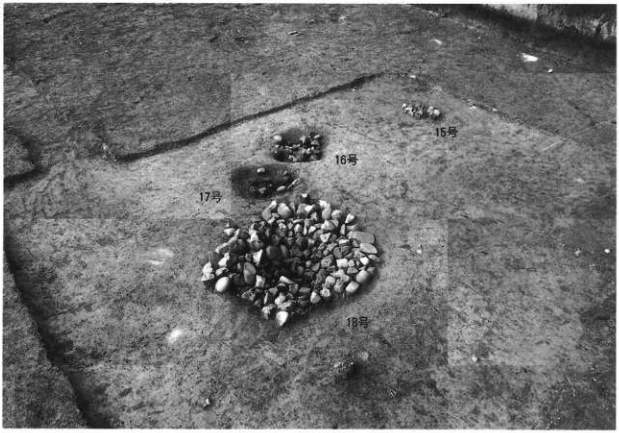


Ⅰ区検出集石遺構（1～4号）

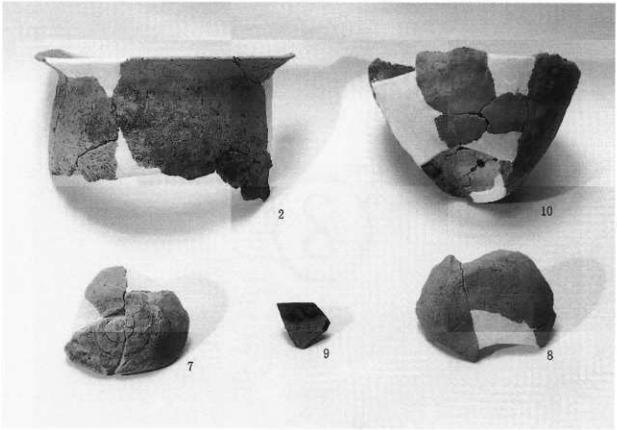


3号溝状遺構（Ⅱ区）

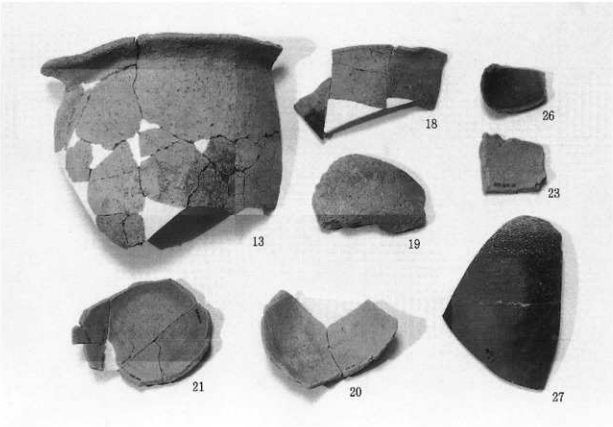
図版4



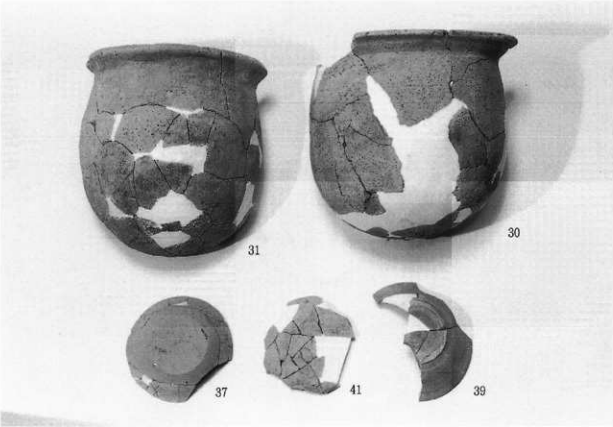
Ⅲ区検出集石遺構（15～18号）



1号住居出土遺物

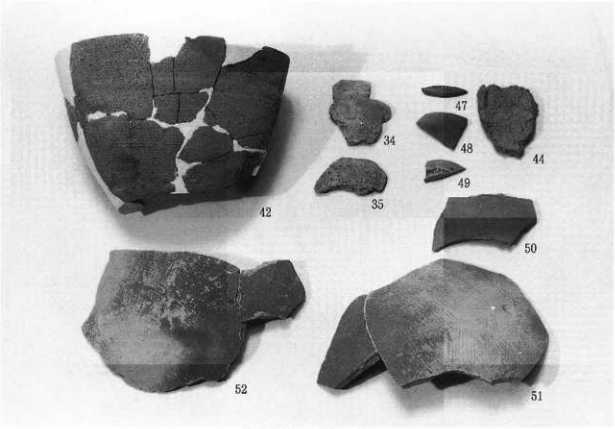


2号住居出土遺物

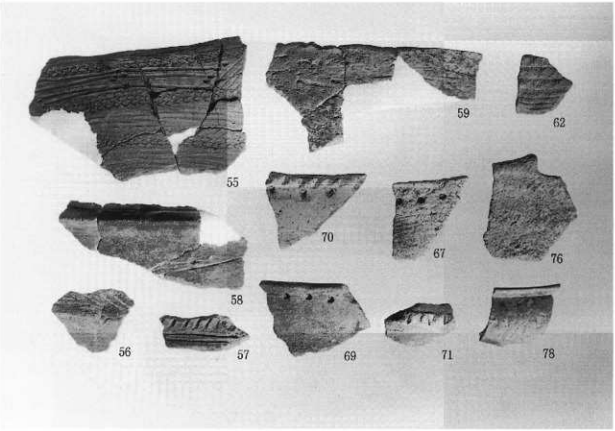


3号住居出土遺物 ①

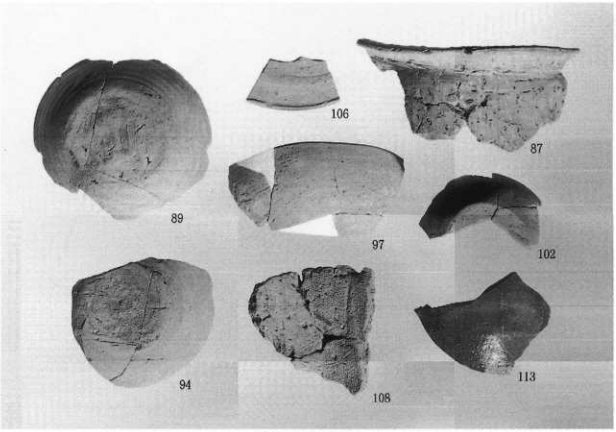
図版6



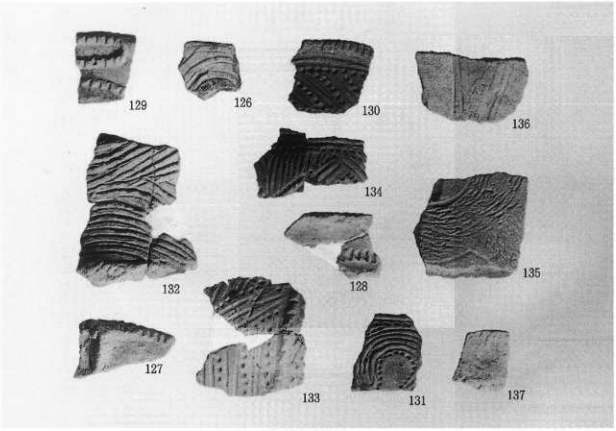
3号住居出土遺物 ②



Ⅰ区出土遺物 ①

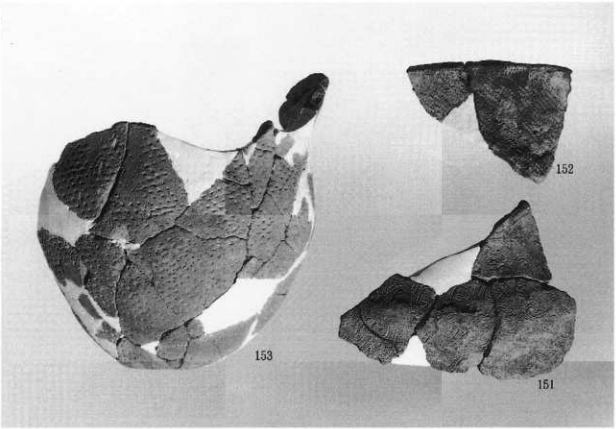


Ⅰ区出土遺物 ②

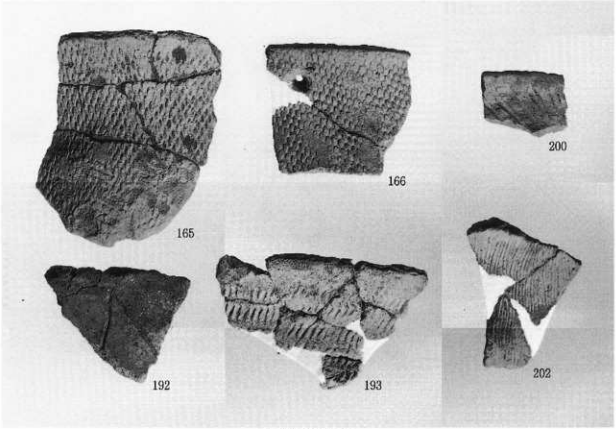


Ⅱ区出土遺物

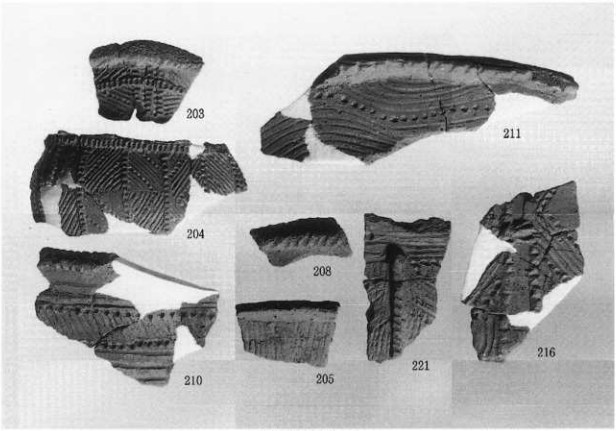
図版8



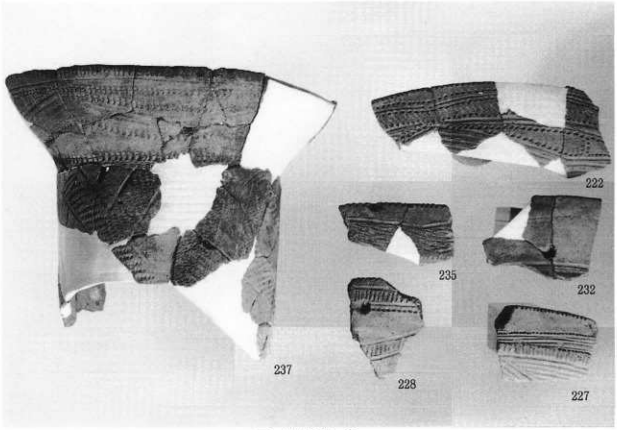
Ⅲ区出土遺物 ①



Ⅲ区出土遺物 ②

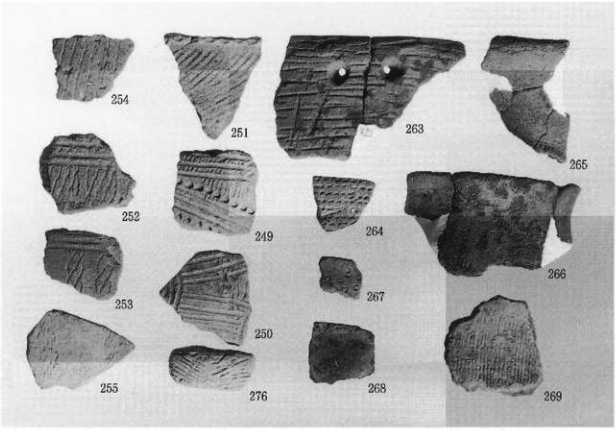


Ⅲ区出土遺物 ③

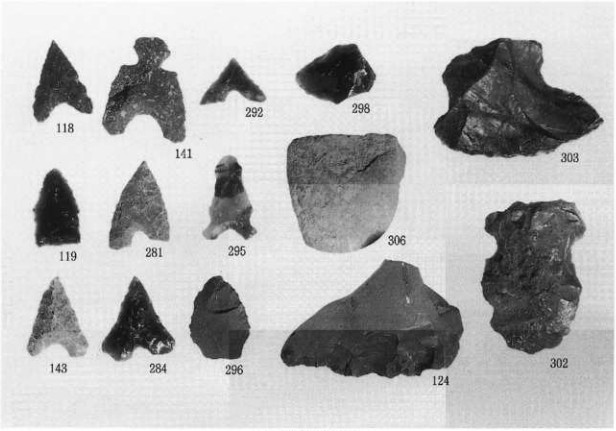


Ⅲ区出土遺物 ④

図版10



Ⅲ区出土遺物 ⑤



Ⅰ～Ⅲ区出土石器

報告書抄録

フリガナ	ハッガノダイサンイセキビーチク
書名	白ケ野第3遺跡B地区
副書名	県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第2集
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第25集－2
編集者名	松林豊樹
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒880－0212　宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地
発行年月日	2000年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
白ケ野第3 遺跡B地区	宮崎市大字細江 字時雨柳迫 清武町大字船引 字白ケ野	31°52′53″ 付近	131°22′00′ 付近	1996. 5. 1 ～ 1996.10.15	25,000m²	圃場整備

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	縄文・古代	集石遺構20 竪穴式住居3	縄文土器・石器 土師器・須恵器	掘立柱建物を伴わない古代の集落

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第25集

白ヶ野第3遺跡B地区

県営農地保全整備事業時原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

2000年3月

発　行　宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212　宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地
TEL　0985－36－1171

印　刷　宮崎紙工印刷株式会社
〒880-0921　宮崎市本郷南方4045－4
電　話　0985－56－2324